### 人間工学ニーズ調査結果報告書 - 産学官民における人間工学の現状と課題 -

Abstract of Survey Results on Needs for Ergonomics in Japan

- Current Status and Future Challenges of Ergonomics at GIAP Sectors -

2010年6月29日

2009年度 日本人間工学会 ニーズ対応型人間工学展開委員会 ニーズ調査ワーキンググループ

## 2009年度 ニーズ対応型人間工学展開委員会 ニーズ調査ワーキンググループ メンバー

2009年度のワーキンググループメンバーは、以下3名である。

#### 神田 直弥

東北公益文科大学 公益学部公益学科 安全人間工学研究室

#### 下村 義弘

千葉大学大学院工学研究科 デザイン科学専攻 人間生活工学研究室

#### 山田 有佳倫

日産自動車株式会社 実験技術開発本部 カスタマーエンジニアリング部 女性への魅力創出グループ

### <u>目 次</u>

調査結果概要	3
<b>調査結果概要</b> 日本人間工学会第51回大会 公募シンポジウム	4
日本人間工学会の新たな挑戦 産学官民連携支援と社会へ向けた情報発信	
調査結果概要 日本人間工学会第51回大会 公募シンポジウム 人間工学ニーズ調査結果概要 - 産学官民における人間工学の現状と課題 - 発表抄録より	21
アンケート項目一覧	25
分析結果	32

# 調查結果概要

### 調查結果概要

日本人間工学会第51回大会 公募シンポジウム

日本人間工学会の新たな挑戦 産学官民連携支援と社会へ向けた情報発信 日本人間工学会第51回大会 公募シンポジウム 日本人間工学会の新たな挑戦-産学官民連携支援と社会へ向けた情報発信-

## 人間工学ニーズ調査結果概要

- 産学官民における人間工学の現状と課題-

## [ニーズ調査WG] 神田直弥(東北公益文科大学) 下村義弘(千葉大学)

山田有佳倫(日産自動車(株))

## 背景と目的

産官学民の各セクター人材の人間工学ニーズの 把握と、学会としてのニーズへの対応・支援



- 産官学民の各セクターにおける人間工学に対する意識やニーズの把握
- 広報戦略上重要なHPに対するニーズの把握



• 学会HP上でのアンケート調査を実施

## 方法

### 手順

- √2009年9月下旬よりアンケート設計開始
- √10月13日以降各WGにて修正・追加
- √ 11月10日 (火) よりWebサイト上で開始
  - √アクセス可能期間は約1か月半

### • 周知方法

- / 学会誌第45巻第5号による事前周知
- ✓ 各大会や委員個人による呼びかけ

### 調查項目

### 回答者属性

人間工学に対する意識・ニーズ

イメージ、社会への浸透度と必要性、注目企業・ 大学、人間工学の理解度と発言力、実践事例数、 就職、学生のシーズと会社のニーズ・・・

### 学会HPについて

• 閲覧頻度、コンテンツ別閲覧状況、情報量と質、 視覚的美しさ、使いやすさ・・・

### Webコンテンツ案への重要性・提供方法

• 学会誌の公開、電子投稿、教育用コンテンツ・・・

### 回答者属性

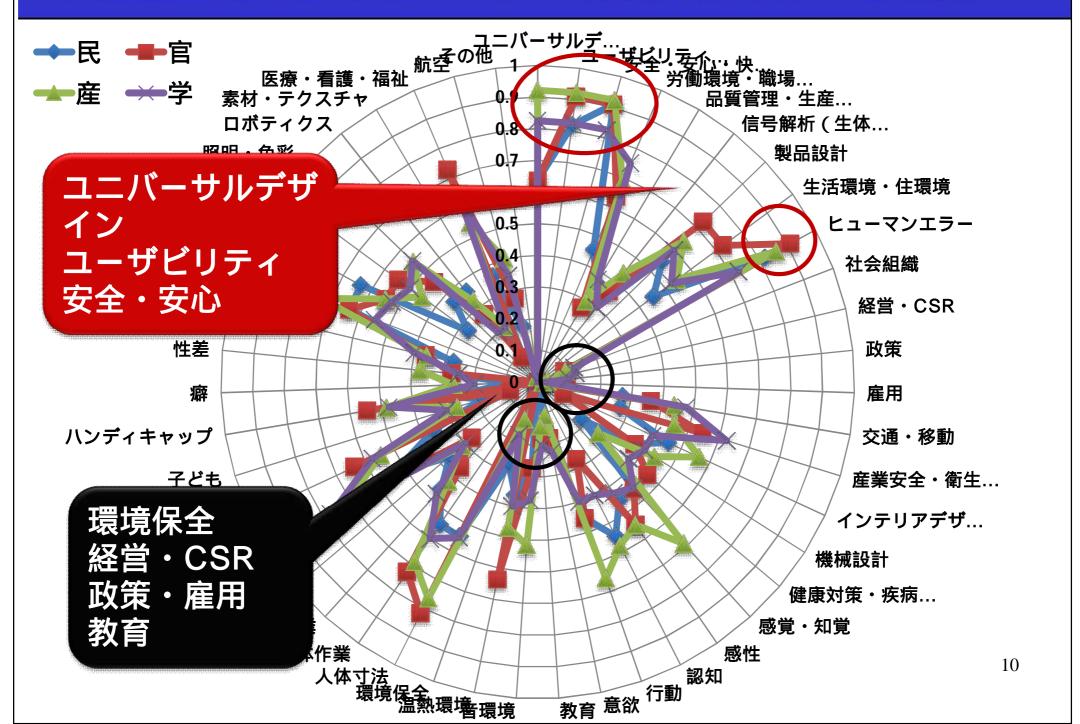
• 126名からの貴重な回答を得た

✓ 男性: 99、女性: 27

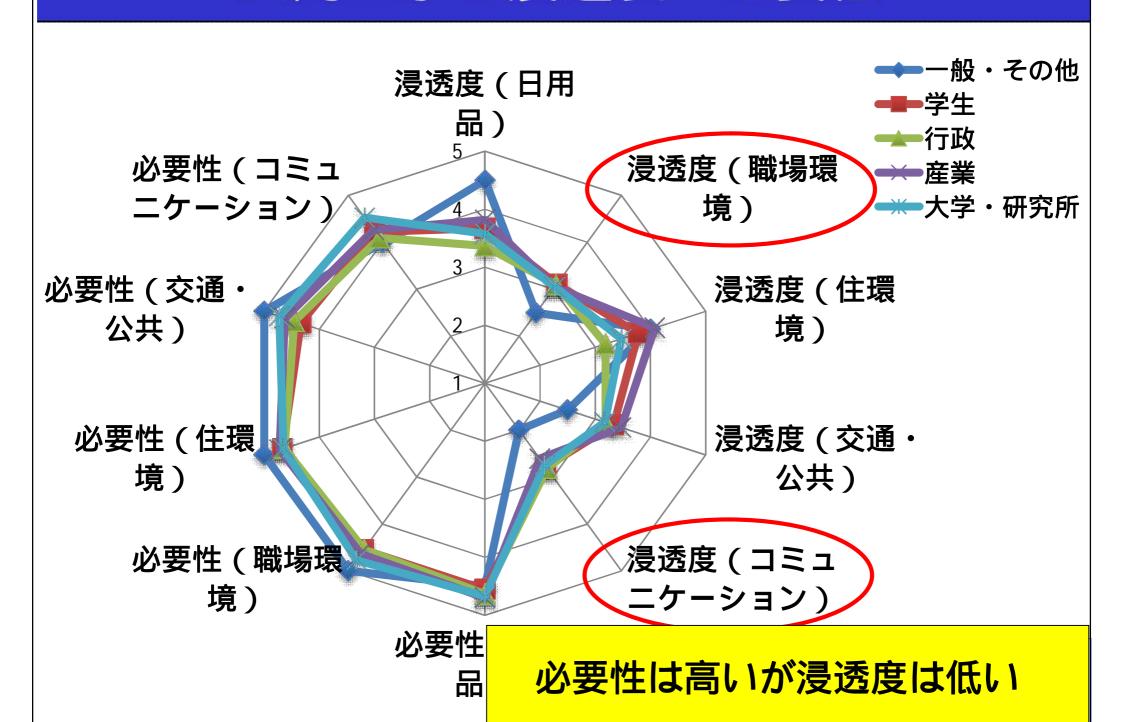
✓ ~20代: 26、30代: 41、40代: 40、50代~: 19

	一般・そ の他	学生	行政	産業	大学・研 究所	総計
会員	0	2	9	31	33	75
非会員	2	7	2	33	7	51
総計	2	9	11	64	40	126

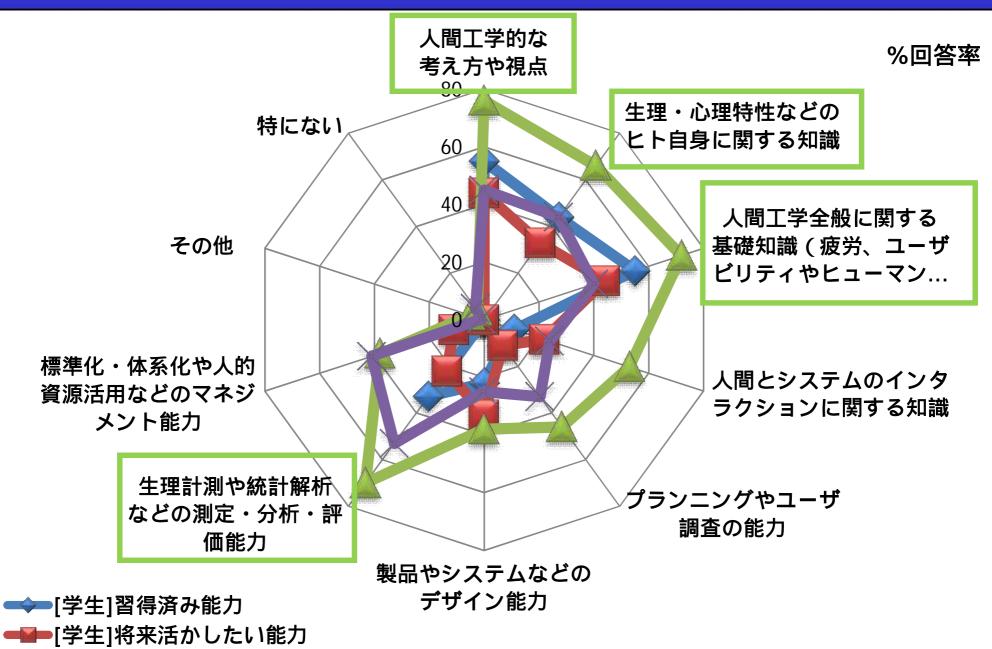
## 人間工学のイメージ (関連が深い領域)



## 人間工学の浸透度・必要性



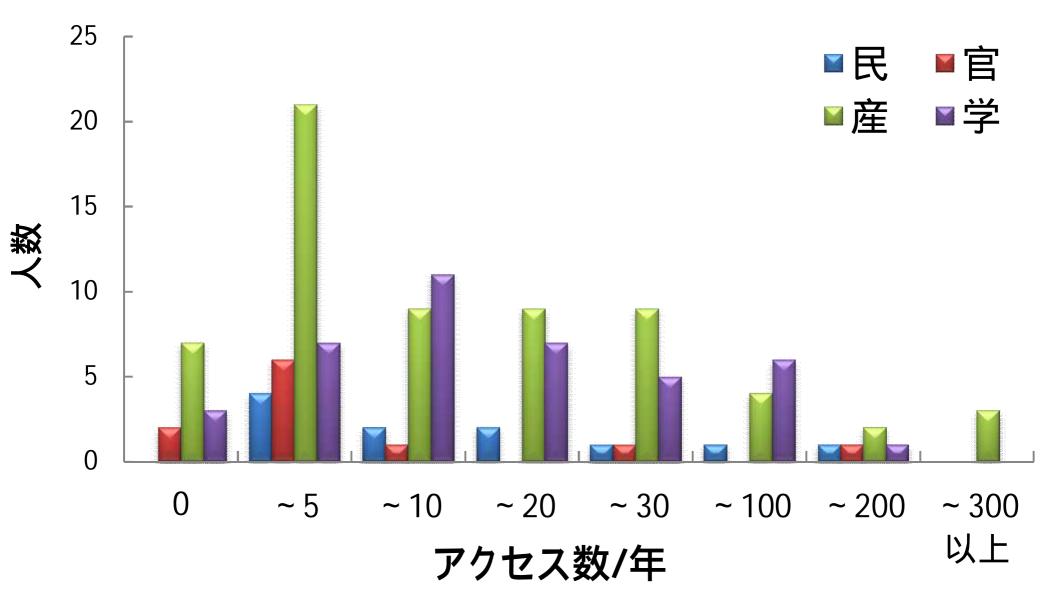
## 学生と会社の能力意識



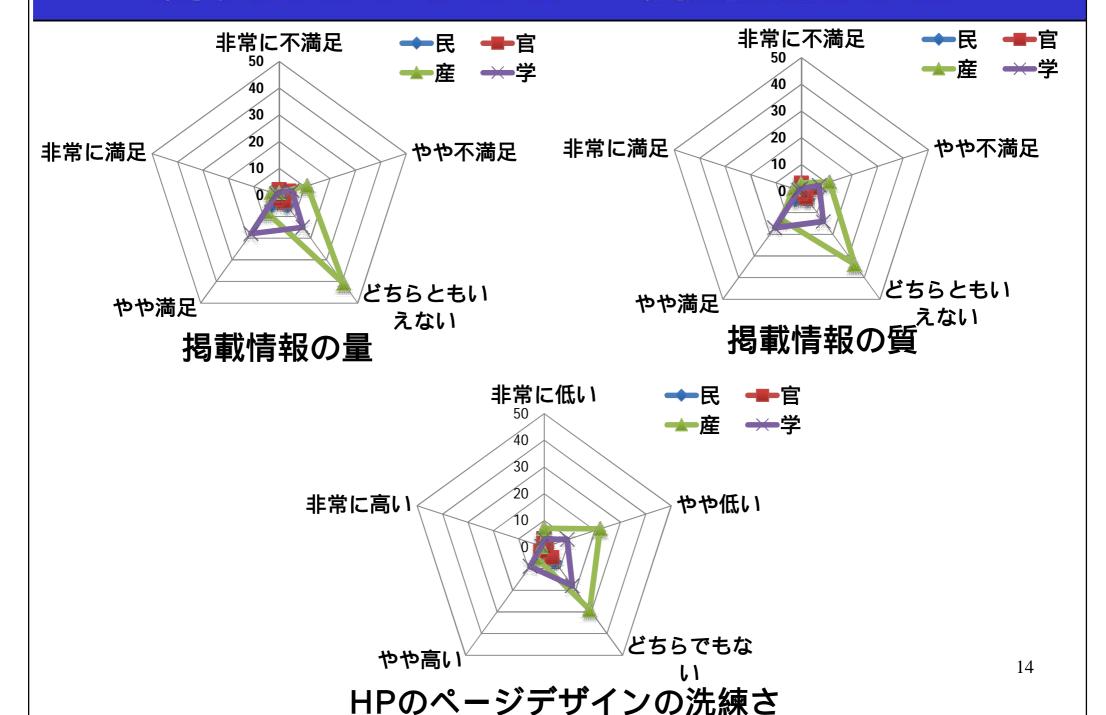
━━[産業][行政]所属部署で求められる能力

━━[産業][行政]所属部署で業務上困っている点

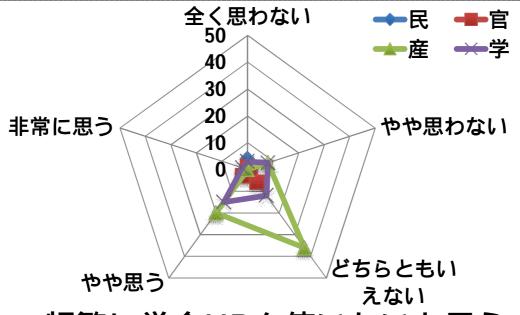
## 学会HPの閲覧頻度



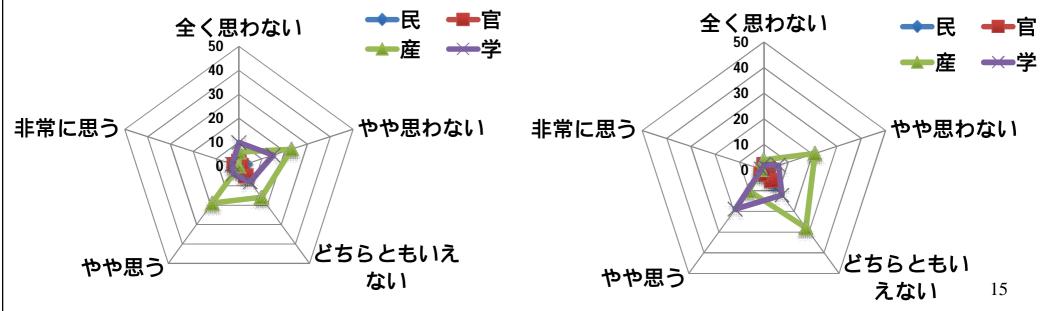
## 現状のコンテンツ・視覚的美しさ



## 使いやすさについて



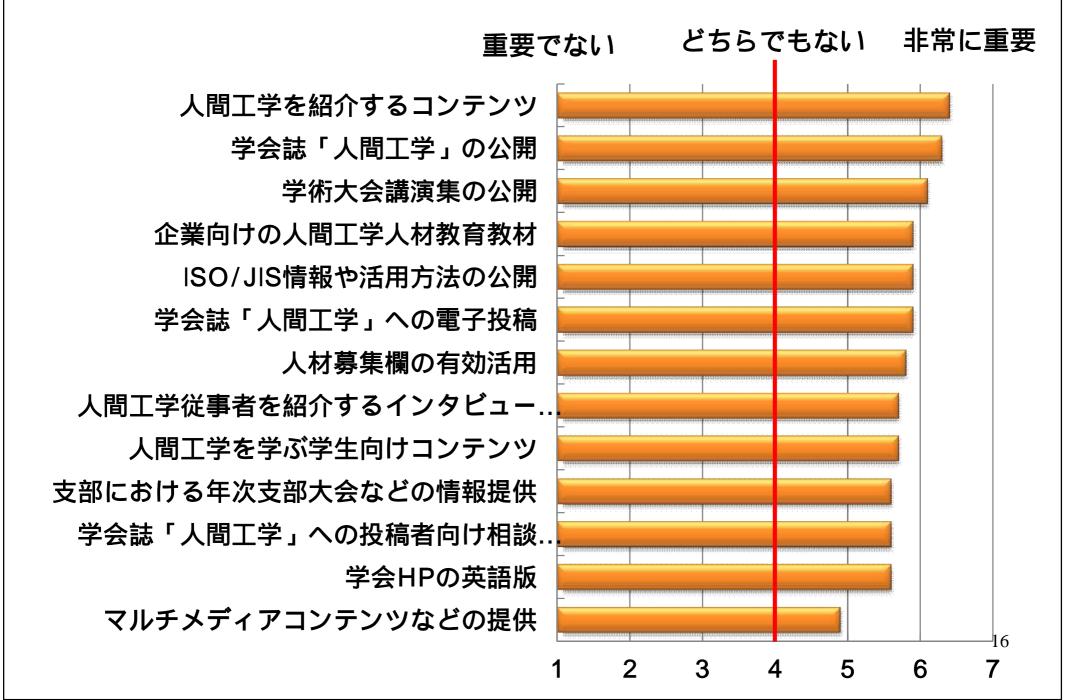
### 頻繁に学会HPを使いたいと思う



学会HPは不必要に複雑だと思う

様々なコンテンツをうまくまとめている

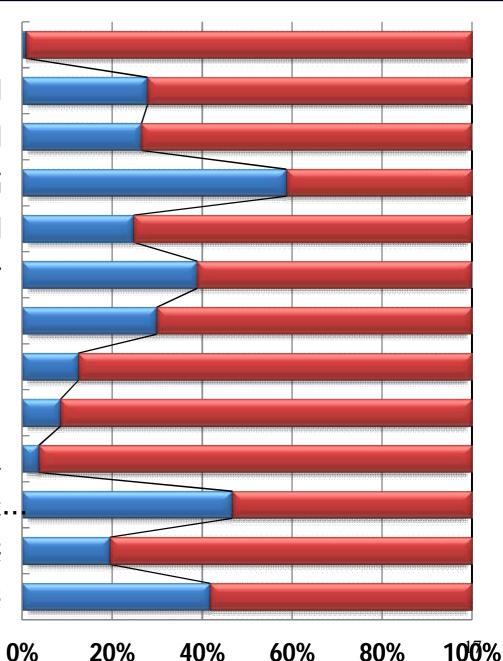
## コンテンツのニーズ(重要性)



## コンテンツのニーズ(重要性)

人間工学を紹介するコンテンツ 学会誌「人間工学」の公開 学術大会講演集の公開 学会誌「人間工学」への電子投稿 ISO/JIS情報や活用方法の公開 企業向けの人間工学人材教育教材 人材募集欄の有効活用 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツ インタビューサイト 学会HPの英語版

学会誌「人間工学」への投稿者向け相談。 支部における年次支部大会などの情報提供 マルチメディアコンテンツなどの提供



■会員限定 ■一般サービス

## まとめ

- 学会HPは頻繁に使用したいが構成が複雑と
   考える意見あり HCD-WG
- インタビューサイトのニーズ GIAP共同推 進WG
- 学生のシーズと会社のニーズの違い、学習用 コンテンツのニーズ 若手人材支援WG
- ・ 学会誌の公開や電子投稿へのニーズ 学術 WG

## おわりに

- 詳細は学会HPの報告書をご覧ください
- http://www.ergonomics.jp/product/ report.html

(近日中公開予定)

ご清聴ありがとうございました



### 調查結果概要

日本人間工学会第51回大会 公募シンポジウム

人間工学ニーズ調査結果概要 - 産学官民における人間工学の現状と課題 -

発表抄録より

#### 人間工学ニーズ調査結果概要

#### - 産学官民における人間工学の現状と課題 -

神田直弥(東北公益文科大学),

下村義弘(千葉大学),山田有佳倫(日産自動車(株))

Abstract of Survey Results on Needs for Ergonomics in Japan

- Current Status and Future Challenges of Ergonomics at GIAP Sectors -

Naoya KANDA (Tohoku University of Community Service and Science),

Yoshihiro SHIMOMURA (Chiba University), Yukari YAMADA (Nissan Motor Co., Ltd.)

#### 1.背景と目的

産官学民の各セクターにおいて、人間工学という学問そのものについての意識や隔たり、また広報戦略上重要なHPに対するニーズなど、不明な点が多い。本報告の目的は、これらの現状や課題を明らかにすることであった。

#### 2. 方法

2009年9月下旬よりアンケートの設計を開始し、10月13日WGにて修正・追加ののち、webサイト (HP)上で2009年11月10日(火))より公開した。回答のためのアクセス可能期間は約1カ月半であった。なお、本アンケートの周知については事前に学会誌第45巻第5号に案内を掲載し、必要に応じて各大会や委員個人で呼びかけを行った。

#### 3. 結果

#### 3-1. 人間工学そのものについて

#### 3-1-1. 回答者属性

回答者は30~40代を中心とする126名(男99、 女27)であった。会員では[大学](研究機関含む)と[産業]セクターが4割ずつで大半を占め、 非会員の大半(65%)は[産業]であった。職業別では70%が研究開発であった。

#### 3-1-2. 人間工学のイメージと浸透度

人間工学に関するキーワードについて、セクター間にイメージの差はなく、組織や経営、CSR、教育や環境保全には関連が薄いと思われている。また必要性の割には浸透度が低く、特にコミュニケーションや職場環境関連でその傾向は顕著であった(図1)。資格認定に関する認知度と希望は[産業]で最も高かった。注目機関の自由記述では、企業ではパナソニック、TOTO、トヨタ、大学では千葉大学と和歌山大学が多かった。

#### 3-1-3.組織における実態

組織内での理解度と発言力はイコールであり、ともに所属部署内では組織全体の1.2倍程度であった。[大学]が[行政]や[産業]と比べてこれらが低いのは、学問の認知度として解釈されたためだろう。また、実践内容は[産業]と[大学]で住みわけができている(図2)。事例数は[行政]で最も低かった([産業]51、[大学]32、[行政]9件)。

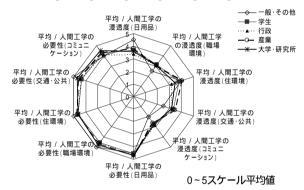


図1 人間工学の浸透度と必要性

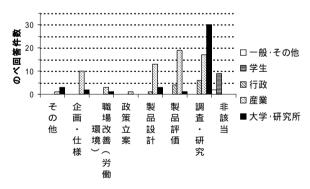


図2 内容別の各セクターの実践頻度

3-1-4. [学生]と[産業][行政]の能力意識 [産業]ではマネジメントやデザイン能力 (40%)よりも人間工学のコンセプトや知識、方法のニーズ (70%~80%)が高かった。特に測定・評価やユーザ調査の能力は[学生]シーズとの隔たりが大きかった (図3)。

3-1-5. 各セクターや学会で必要な取り組み 自由記述で多くみられた意見は、人間工学の意 義と成果の社会的認知を広めること([産業]、 [大学]、[行政])と、方法の定式化・基準化 ([産業]、[大学])であった。

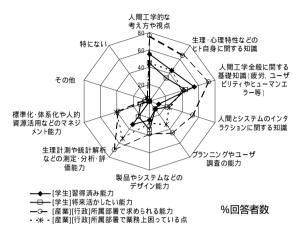
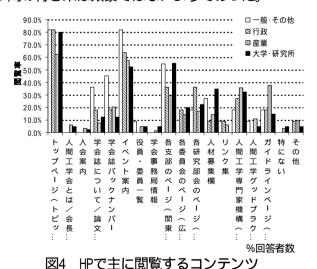


図3 [学生]と[産業][行政]の能力意識

### 3 - 2 . 人間工学会のHPによる広報戦略について 3 - 2 - 1 . 閲覧状況

個人の年間アクセス数の概要は、毎月2~3回以上の高頻度群は33.3%、月に1回以下の低頻度群は66.7%であり、十分な閲覧状況ではなかった。図4によると全セクターで50%以上の閲覧率であるのは、トップページとイベント案内のみであった。また[一般]は学会誌、[産業]はガイドライン等といった必要な情報に目的を絞っており、コンテンツ間の行き来は頻繁ではないようであった。



3-2-2. 現状のコンテンツについて

コンテンツの質、量ともに、各セクターで"非常に不満足"はほぼ0であり、[大学]は"やや満足"に、[産業]は"どちらでもない"に突出し、

[産業]は[大学]よりも厳しく判断をしていた。また視覚的洗練さや美しさはコンテンツと概要は同じだが、全体がより不満足側にシフトしいていた。3-2-3.使い易さについて

[産業]が厳しい判断であることは同様であり、 "コンテンツをうまくまとめているか"(図5)等 の項目で不満足側に偏っており、現状のHPに対し て煩雑さや情報整理の不備が指摘された。

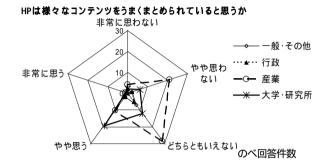


図5 HPの使い易さについての結果の一例

#### 3-2-4. 将来的なコンテンツのニーズ

重要性・必要性については、各セクター間に若 干の意識のずれは見られるが、平均値で上位順に、 人間工学の紹介(6.4pt(@最大7)) 学会誌の公 開(6.3pt) 大会講演集の公開(6.1pt) 論文の 電子投稿(5.9pt)であった。講演集に対する ニーズは[産業]で最も高かった。" どちらでもな い"(4pt)未満の項目は見られなかったが、低い 順では、マルチメディアコンテンツの提供 (4.9pt) 支部大会などの情報提供(5.6pt) 投 稿者相談窓口(5.6pt) 英語版ページ(5.6pt) であった。コンテンツの提供方法については、論 文の電子投稿は"会員限定"が"一般公開"を上 回り、学会誌と講演集はその逆、そして人間工学 の紹介は98%が一般公開すべきとの回答であった。 自由回答はこれらの結果を、必要性や費用対効果、 優先順位の点で説明するものであった。

#### 4.まとめ

各セクターに共通して、人間工学の知識や方法 論の整備・定式化の重要性とともに、社会的認知 の低さが指摘された。また情報提供手段として最 も有用なHPについて、閲覧状況や潜在的ニーズが 明らかとなった。これらの現状を把握した上で学 会としてのビジョンをもち、各セクター間をより 密接につなげるwebサイトを中心とする新たな広 報戦略が必要である。なお本調査結果の詳細な報 告書は2010年6月下旬に学会webで公開予定である。

# アンケート項目一覧

アンケートの項目は下記の通り。

#### 1. 回答者属性

あなたご自身について伺います (年代・性別・会員・支部)。

#### 2. あなたは「産・官・学・民」のどのセクタに属しますか。

#### 3. 人間工学のイメージ

"人間工学"に対するイメージをおたずねします。人間工学が応用されている下記領域で、「人間工学と関連が深い」とあなた自身が思うものを選んでください(複数選択可)。

#### 4. 認定人間工学専門家制度・注目している企業・大学

日本人間工学会では、認定人間工学専門家制度があります。人間工学の知識・技術・問題解決能力を充分に持ち、実践できる人材として認証しています。人間工学専門家認定制度についてご存知ですか

人間工学専門家認定を取得したいですか

人間工学で注目している企業・大学はありますか? 人間工学に関する活動・取り組みなどで、特に注目している企業や大学、ならびにその内容についてお知らせ下さい

#### 5. 人間工学の組織内での理解度・発言力

学内 / 企業内 / 省庁内において、人間工学に対する組織内での理解度はどの程度ですか 人間工学に関する組織内での発言力はあなたから見てどの程度ですか 御所族部署による人間工学に関する実践事例数はどの程度ですか

#### 6. 学生の就職意識

就職の希望についてお聞かせください 内定者 / 就職活動中 / 未活動の方いずれもご回答ください

就職の嗜好についてお聞かせください

#### 7. 学生と会社の能力意識

- <学生>あなたが現時点で習得している人間工学に関する専門能力は何ですか
- <学生>将来、仕事で人間工学を活かしたい専門能力は何ですか
- < 産業・行政 > あなたのご所属部署において、人間工学人材に求められている専門能力は 何ですか
- < 産業・行政 > あなたのご所族部署で人間工学に基づいて業務を進める上で、現時点で不足していると思われる専門能力は何ですか

#### 8. 人間工学の普及・発信のために必要な取り組み

人間工学を社会に普及・発信するために、産官学民の各セクターにおいて、どのような取り組みが必要だと思いますか? また、学会として各セクター(産官学民)に支援すべきことなど、ご意見があれば、ご記入下さい

#### 9. 学会ホームページについて

#### 9.1 閲覧頻度とコンテンツ

日本人間工学会のホームページの年間の閲覧頻度はどの程度ですか 日本人間工学会のホームページで主に閲覧するコンテンツをご回答ください

#### 9.2. ホームページのコンテンツと視覚的美しさ

現在の学会ホームページ(HP)のコンテンツについて、下記の項目を評価してください 現在の学会ホームページの視覚的美しさ(ビジュアルデザイン)について、評価してくだ さい

#### 9.3. ホームページの使いやすさ

現在の学会ホームページ(HP)の使いやすさについて、下記の項目を評価してください。 なお、肯定的・否定的な設問が交互に配置されています。設問内容をよく読み、回答くだ さい。

#### 10. 委員会で検討を進めているコンテンツ案

10.1. 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツ (Information for Students)

#### 現状

#### 検討内容

#### 10.2. 人材募集欄の有効活用

#### 現状

⇒ 人間工学会の学会 HP では、学会事務局へ求人情報掲載の依頼を頂いたものについて 「人材募集」欄に掲載しています。

#### 検討内容

○ 人材情報の積極的な収集や、企業が求める人間工学人材ニーズを収集し、より活発な就職支援サイトにします。各大会において、人間工学で就職を希望する学生と企業の人間工学実務担当者が意見交換をする機会を会場内で提供していますが、そのような企画の全国展開や討論内容を HP で提供し、多くの学共有することができるようにします。

#### 10.3. 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイト

#### 現状

⇒ 人間工学会の学会 HP では、人間工学人材を紹介するコンテンツは提供しておりません。

#### 検討内容

#### 10.4. 人間工学を紹介するコンテンツ

#### 現状

⇒ 人間工学会の学会 HP で 「人間工学とは何か」をわかりやすく紹介するコンテンツは提供しておりません。

#### 検討内容

⇒ 学生や一般の方のみならず、企業や大学でも「人間工学とは何か」を理解していない方が多いのが現状です。専門ではない方にも、人間工学を理解してもらえるようなコンテンツを用意します。例えば人間工学が扱う分野や領域、製品事例をもとに、どのように人間工学が役立っているかを紹介し、理解を促進します。

#### 10.5. 各支部における年次支部大会の情報提供

#### 現状

→ 人間工学会の学会 HP では、各支部大会の開催案内はトップページおよび各支部 のページにて紹介していますが、開催内容については HP で掲載していません。

#### 検討内容

◇ 各支部でどのような発表や取り組みが行われているのかを HP で提供することで、 支部活動の活性化や支部間交流の機会にもなります。広報委員会が「広報特派 員」を募集し、その特派員に各支部大会の取材記を提出頂き、学会 HP にて紹介 するなど、各支部の魅力的な取り組みを全国に発信します。

#### 10.6. マルチメディアコンテンツの提供

#### 現状

→ 人間工学会の学会 HP では、基本的にはマルチメディアコンテンツは扱っておりませんが、近年のブロードバンド環境の整備により、多くのウェブサイトでは動画コンテンツの配信(例えば、Pod casting により大学講義の配信など)が行われています。

#### 検討内容

⇒ 全国大会の特別講演やシンポジウム、学会主催のホットトピックな講演会など、より多くの方に情報を発信したいコンテンツについては、講演内容を映像録画し、ストリーミング配信(web 上で映像を閲覧)します。講演者への承諾に加え、配信映像の複製禁止にするなど、一定水準のセキュリティを担保した環境で運用を行います。

#### 10.7. 企業向けの人間丁学人材教育教材

#### 現状

⇒ 人間工学会の学会 HP では、人間工学教育に関するコンテンツやツール類は提供 していません。

#### 検討内容

 「企業の人間工学教育のあり方検討委員会」では、企業の人間工学実務者を対象 とした教育プログラムを検討しています。業種・職種や業務内容に応じて必要と される人間工学の専門能力や、企業内教育体系の枠組みなどを学会 HP に提供し、 幅広く利用可能なように情報を提供します。

#### 10.8. ISO/JIS 情報や活用方法の公開

#### 現状

⇒ 人間工学会の学会 HP では、ISO/TC159 国内対策委員会が「人間工学 ISO/JIS 規格 便覧」を毎年発行し、学会 HP にも掲載しています。

#### 検討内容

□ ISO/TC159 国内対策委員会が「人間工学 ISO/JIS 規格便覧」にて提供している情報に加え、各規格の活用方法や活用事例など、幅広く応用して頂くためのコンテンツを提供します。

#### 10.9. 学会誌「人間工学」の公開

#### 現状

⇒ 学会 HP では、タイトル・著者情報のリストは公開しております (http://www.ergono mics.jp/editorial/backnumber.html)。また、論文を web 上で閲覧・利用するには民間のデータベース (メディカルオンライン社: http://www.meteo-intergate.com/)にて提供されています (有料)。

#### 検討内容

(独)科学技術振興機構の運用する J-STAGE へ学会誌を登録し、世界のデータベース (PubMed など)で検索・引用可能なように整備を進めることを検討中です(誰でも 無料でコンテンツを利用できます)。

#### 10.10. 学会誌「人間工学」への電子投稿

#### 現状

⇒ 原本1部とコピー3部を添付し、編集委員会宛に郵送します。

#### 検討内容

○ (独)科学技術振興機構の運用する J-STAGE へ学会誌を登録すれば、オンライン 査読システムを利用して運用することも可能です。J-STAGE では年 30 編以上の投稿数を損益分岐点の基準(運用コストと効果のバランス)としていますが、学術誌「人間工学」の投稿数はその基準をクリアしています。

#### 10.11. 学術大会講演集の公開

#### 現状

⇒ 全国大会の年次講演集は、2002, 2005, 2006, 2007 の 4 年分のみ、J-SATEGE に 収録されています(本文も無料で閲覧可能)。現状では年次大会を運営する事務 局が講演集を J-STAGE へ登録した場合のみ、公開されています。

#### 検討内容

⇒ アブストラクトの閲覧に加え、発表演題・発表者の検索可能なようにすることで、 最近の研究動向や人間工学の研究領域を把握する手段を提供できます。学術誌 「人間工学」を J-STAGE に登録すれば、同雑誌の特別号として講演集は発刊され ているので、年次大会事務局がその登録作業を行う必要はなく、大会の講演集を 毎年提供することが出来ます。

#### 10.12. 学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口

#### 現状

⇒ 論文投稿者向けの支援サイト、相談窓口は学会 HP では提供しておりません。大学など、指導教官や共同研究環境が整っている場合は投稿前に適切な指導を受ける機会があり、あまり問題となりませんが、企業の方や特定の領域の方にとっては、学術誌「人間工学」へ投稿するのは敷居が高いとの声があります。

#### 検討内容

○ 「人間工学研究の促進と活性化」を目的に、研究計画の立て方、誤用されがちな実験計画法や統計解析、論文執筆で配慮すべきポイントなどを整理した情報を提供します。また、人間工学研究で大切となる倫理指針など、必要な関連知識も提供します。加えて、投稿者向けの相談窓口機能のあり方も検討しています。

#### 10.13. 学会 HP の英語版

#### 現状

⇒ 現在の学会 HP では、トップページのみ英語版が提供されています。

#### 検討内容

→ 人間工学会の取り組みや成果について、英語版を整備して国際的にも発信します。

#### 11. その他意見

最後に、本アンケート内容に関連して何かご意見などございましたらお寄せください。

# 分析結果

1. 回答者属性	32
2. 人間工学のイメージ	34
3. 人間工学の浸透度・必要性	36
4. 認定人間工学専門家制度・注目している企業・大学	37
5. 人間工学の組織内での理解度・発言力	40
6. 学生の就職意識	42
7. 学生と会社の能力意識	44
8. 人間工学の普及・発信のために必要な取り組み	45
9. 学会ホームページについて	49
9.1.閲覧頻度とコンテンツ	49
9.2.ホームページのコンテンツと視覚的美しさ	51
9.3.ホームページの使いやすさ	58
10. 委員会で検討を進めているコンテンツ案	68
10.1. 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツ(Information for Students) _	68
10.2. 人材募集欄の有効活用	70
10.3. 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイト	72
10.4. 人間工学を紹介するコンテンツ	74
10.5. 各支部における年次支部大会の情報提供	76
10.6. マルチメディアコンテンツの提供	78
10.7. 企業向けの人間工学人材教育教材	80
10.8. ISO/JIS情報や活用方法の公開	82
10.9. 学会誌「人間工学」の公開	84
10.10.学会誌「人間工学」への電子投稿	86
10.11.学術大会講演集の公開	88
10.12.学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口	90
10.13.学会HPの英語版	92
11. 子の他音見	94

#### 1. 回答者属性

あなたご自身について伺います(年代・性別・会員・支部)。 あなたは「産・官・学・民」のどのセクタに属しますか。

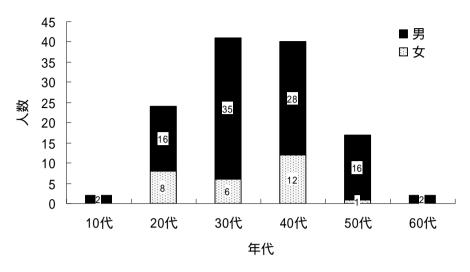


図 1 回答者の年代・性別

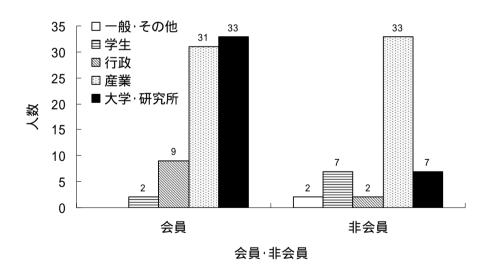


図 2 回答者のセクタ・会員属性

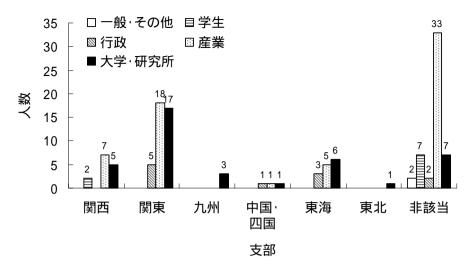


図 3 回答者のセクタ・支部属性

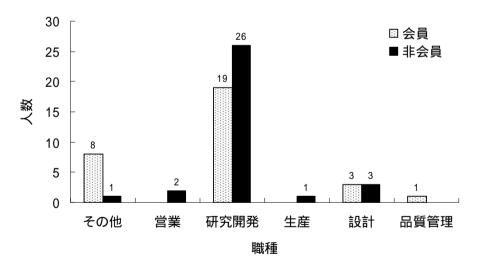


図 4 セクタにおける職種属性(産業)

#### <u>2. 人間工学のイメージ</u>

"人間工学"に対するイメージをおたずねします。人間工学が応用されている下記領域で、「人間工学と関連が深い」とあなた自身が思うものを選んでください(複数選択可)。

表 1 セクタ別人間工学のイメージ

	一般・ その他	学生	行政	産業	大学・ 研究所	総計
ユニバーサルデザイン	2	5	7	59	33	106
ユーザビリティ / 人間中心設	2	7	10	59	33	111
計		0	10		00	440
安全・安心・快適設計・評価	2	8	10	59	33	112
労働環境・職場改善 品質管理・生産システム	0	5	7	44	30	86
	1	3	3	19	15	41
信号解析(生体信号処理など)	1	3	4	28	12	48
製品設計	2	4	8	41	24	79
生活環境・住環境	2	3	8	35	21	69
ヒューマンエラー	2	7	10	55	29	103
社会組織	0	1	1	6	5	13
経営・CSR	0	1	1	2	5	9
政策	0	0	1	2	4	7
雇用	0	0	0	1	1	2
交通・移動	0	3	4	28	19	54
産業安全・衛生全般	0	3	6	29	25	63
インテリアデザイン	2	3	1	36	16	58
機械設計	1	3	4	28	16	52
健康対策・疾病予防	1	1	5	16	15	38
感覚・知覚	1	4	5	44	18	72
感性	1	4	6	35	17	63
認知	1	5	3	37	16	62
行動	1	4	5	42	16	68
意欲	0	2	2	7	9	20
教育	0	0	2	9	8	19
音環境	1	2	3	33	15	54
温熱環境	1	3	7	30	16	57
環境保全	0	3	0	8	7	18
人体寸法	1	5	9	49	22	86
身体作業	2	4	8	44	24	82
精神作業	0	5	4	27	19	55
スポーツ	1	3	3	20	12	39
疲労	2	4	7	46	31	90
高齢者	0	4	7	35	23	69
子ども	0	2	1	17	12	32
ハンディキャップ	0	3	6	31	19	59
癖	0	1	0	17	8	26
性差	1	2	3	24	10	40
環境計測	0	3	4	23	16	46
生理計測	1	6	7	47	22	83
道具	2	5	6	35	21	69
衣服	1	2	6	29	20	58
照明・色彩	1	3	5	35	22	66
ロボティクス	1	3	3	21	8	36
素材・テクスチャ	0	1	1	13	8	23
医療・看護・福祉	2	2	8	35	25	72
航空	1	1	3	26	14	45
その他	0	0	0	1	0	1

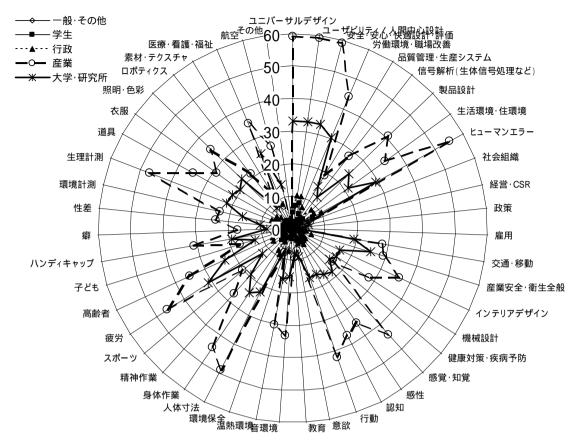


図 5 セクタ別人間工学のイメージ

### 3. 人間工学の浸透度・必要性

"人間工学"の社会への浸透度(普及度合い・応用度合い)について、あなたの認識をおたずねします。各項目について、浸透度を回答してください。

人間工学応用の必要性について、あなたの認識をおたずねします。各項目について、人間 工学を適用してほしい(すべき)度合いを回答してください。

		一般・ その他	学生	行政	産業	大学・ 研究所	総計
	日用品	4.50	3.67	3.36	3.81	3.58	3.70
<b>油水</b>	職場環境	2.50	3.11	3.09	3.05	3.05	3.05
浸透 度	住環境	4.00	3.78	3.18	4.08	3.48	3.79
反	交通・公共	2.50	3.33	3.18	3.47	3.18	3.33
	コミュニケーション	2.00	2.78	2.82	2.61	2.75	2.67
	日用品	4.50	4.56	4.64	4.70	4.68	4.67
.\/ <del></del>	職場環境	5.00	4.56	4.55	4.64	4.77	4.67
性	住環境	5.00	4.67	4.64	4.72	4.65	4.69
	交通・公共	5.00	4.33	4.45	4.63	4.73	4.63
	コミュニケーション	4.00	4.22	4.09	4.27	4.53	4.33

表 2 人間工学の浸透度・必要性

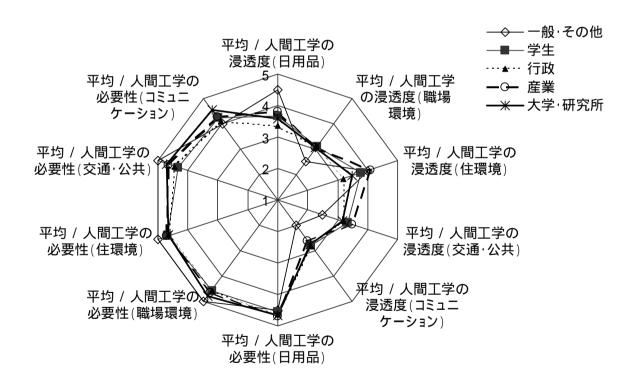


図 6 セクタ別人間工学の浸透度・必要性

## 4. 認定人間工学専門家制度・注目している企業・大学

日本人間工学会では、認定人間工学専門家制度があります。人間工学の知識・技術・問題解決能力を充分に持ち、実践できる人材として認証しています。人間工学専門家認定制度についてご存知ですか

人間工学専門家認定を取得したいですか

人間工学で注目している企業・大学はありますか? 人間工学に関する活動・取り組みなどで、特に注目している企業や大学、ならびにその内容についてお知らせ下さい

表 3 セクタ別認定人間工学専門家制度認知・注目している企業・大学有無

	一般・ その他	学生	行政	産業	大学・ 研究所	総計
注目企業・大学あり	2	10	11	54	36	113
人間工学専門家認定(CPE)認知	2	10	17	98	67	194
CPE取得希望	2	11	17	102	53	185

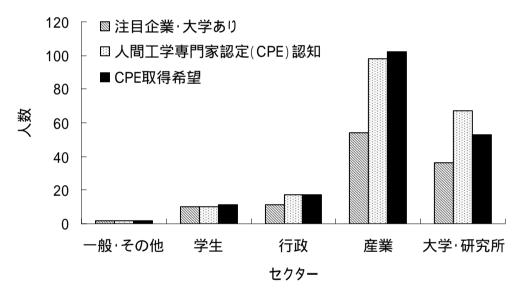


図 7 セクタ別認定人間工学専門家制度認知・注目している企業・大学有無

表 4 注目している企業(自由記述)

注目企業名	注目企業内容
ergonomidesign	スウェーデンのデザイン事務所。魅力的な応用例が多い。
ТОТО	ユニバーサルデザイン
ТОТО	ユニバーサルデザイン
ТОТО	ユニバーサルデザイン研究
ТОТО	ユニバーサルデザイン研究
ТОТО	製品開発
тото	未記入
U.I.D GmbH	ドイツを中心としたヨーロッパのユーザビリティ会社
アイシン精機	企業全体で人間工学的ものづくりに取り組んでいる
アイシン精機	未記入
コクヨ	ユニバーサルデザイン製品を積極的に開発している.
コクヨ	家具・文具
ダイワハウス	フレンドリーデザイン
デルタツーリング	生体情報
トヨタ	ユニバーサルデザイン
トヨタ	長年にわたり、内装に先進的なさまざまな工夫がなされている
トヨタ自動車	ユーザビリティ
トヨタ自動車	工場における作業の高齢化対策
なし	未記入
パナソニック	ユーザビリティ評価
パナソニック	ユニバーサルデザインに関して先進している
パナソニック	人間中心設計,ユニバーサルデザイン
パナソニック	未記入
パナソニック電工	住環境
マイクロソフト	未記入
マツダ株式会社	HMI関連の技術
ワコール	人体寸法と生理計測
株式会社ビービット	ユーザ中心のウェブサイト設計
三洋電機	ムービーカメラ
自動車産業	運転席設計
西日本旅客鉄道株式会社	ヒューマンファクター研究
大阪ガス	行動観察研究所の活動内容
大阪ガス 行動観察研究所	行動観察に関する研究をビジネスとして始めている
日産自動車株式会社	高齢者研究・乗員姿勢・ドライバーディストラクション研究
富士通	ユニバーサルデザイン
富士通	未記入
労働科学研究所	人間工学に関する広範かつ実践的な活動

表 5 注目している大学(自由記述)

注目大学名	注目大学内容
ラフボロー工科大学	活動状況は知らないが、ところどころで名前を聞くため、気になって
	いる。
金沢工業大学	感動デザイン工学研究所
九州大学	ユーザーサイエンス機構の動向
群馬県立県民健康科学大学	診療放射線技師のヒューマンエラーに関する研究
慶応大学	生体工学
慶應義塾大学	山崎信寿研究室
広島国際大学	人間工学専門の学部があり、専門的であること
広島大学工学部	生体情報
信州大学繊維学部	快適設計
信州大学繊維学部	製品設計に人間工学,感性工学を取り入れている
神奈川大学	未記入
千葉大	未記入
千葉大学	いろいろな研究
千葉大学	人間工学
千葉大学	人間生活工学研究室
千葉大学	生体信号計測
千葉大学	生体信号計測
千葉大学	未記入
千葉大学	未記入
千葉大学工業意匠	下村先生
早稲田大学	人間生活工学研究 小松原研究室
早稲田大学、大阪市立大学	人間生活工学研究、居住環境
大阪府立大学	船舶の乗り心地評価
日本サムスン	面白そう
名古屋大学	住環境分野での研究が深い
和歌山大学	人間中心設計
和歌山大学	未記入
和歌山大学、大阪市立大学	研究事例が豊富
和歌山大学システム工学部	観察工学の研究・実践・手法開発

# 5. 人間工学の組織内での理解度・発言力

学内 / 企業内 / 省庁内において、人間工学に対する組織内での理解度はどの程度ですか 人間工学に関する組織内での発言力はあなたから見てどの程度ですか 御所族部署による人間工学に関する実践事例数はどの程度ですか

表 6 セクタ別組織内での理解度・発言力

	行政	産業	大学・研 究所	総計
組織による理解度 会社全体	1.55	1.88	1.20	1.61
組織による理解度 所属部署内	2.18	2.41	1.60	2.10
組織内での人間工学関連の発言力を社全体	1.64	1.63	1.20	1.48
組織内での人間工学関連の発言力 所属部署 内	1.91	2.28	1.43	1.95

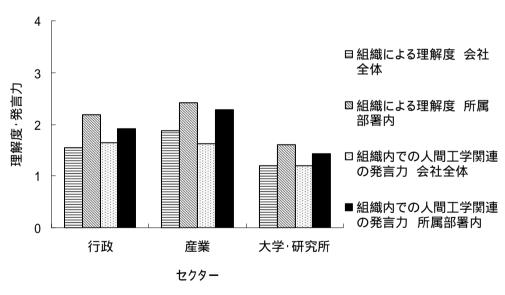


図 8 セクタ別組織内での理解度・発言力

表 7 セクタ別人間工学の実践事例数

	一般・そ の他	学生	行政	産業	大学・研 究所	総計
その他				1	3	4
企画・仕様				10	2	12
職場改善(労働環 境)				3	1	4
-				4		4
政策立案				1		1
製品設計			1	13	3	17
製品評価			4	19	1	24
調査・研究			6	17	30	53
非該当	2	9				11
総計	2	9	11	64	40	126

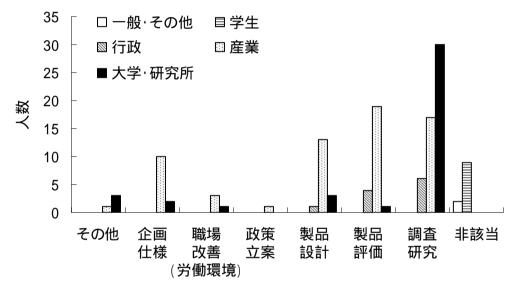


図 9 セクタ別人間工学の実践事例数

# 6. 学生の就職意識

就職の希望についてお聞かせください 内定者 / 就職活動中 / 未活動の方いずれもご回答ください

就職の嗜好についてお聞かせください

表 8 就職の希望について(学生対象)

	女	男	総計
一般企業へ就職希望	1	4	5
研究職・教育職へ就職希望	2	1	3
進学希望		1	1
総計	3	6	9

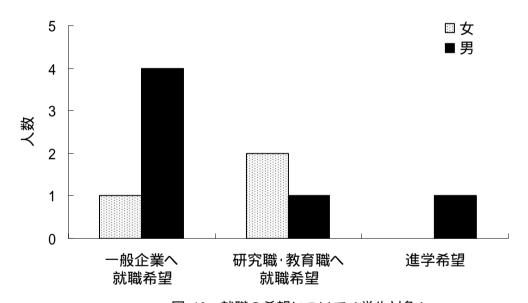


図 10 就職の希望について(学生対象)

表 9 就職の嗜好について(学生対象)

	女	男	総計
わからない	1		1
人間工学を活かしたい	1	3	4
人間工学を活かしたいが難しいと考えてい		1	1
る		•	•
人間工学を活かすことにはこだわらない	1	2	3
総計	3	6	9

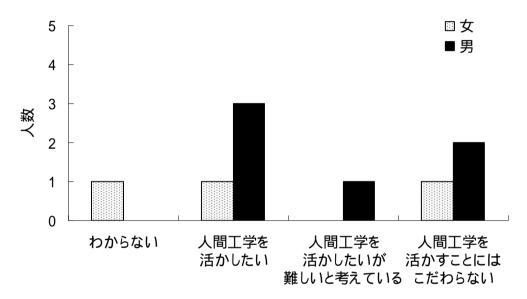


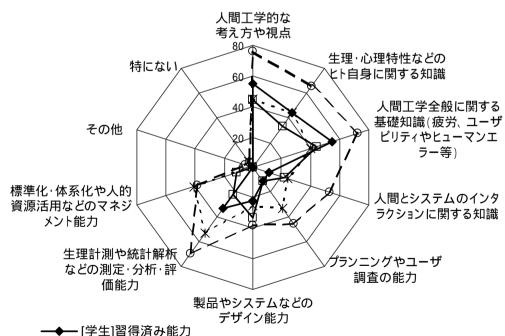
図 11 就職の嗜好について(学生対象)

## 7. 学生と会社の能力意識

- <学生>あなたが現時点で習得している人間工学に関する専門能力は何ですか
- <学生>将来、仕事で人間工学を活かしたい専門能力は何ですか
- < 産業・行政 > あなたのご所属部署において、人間工学人材に求められている専門能力は 何ですか
- < 産業・行政 > あなたのご所族部署で人間工学に基づいて業務を進める上で、現時点で不 足していると思われる専門能力は何ですか

	=	学生	産業	・行政
%回答者数	習得済み 能力	将来活か したい能力	所属部署 で求められ る能力	所属部署 で業務上 困っている 点
人間工学的な考え方や視点	55	44	76	45
生理・心理特性などのヒト自身に関する知識	44	33	66	44
人間工学全般に関する基礎知識 ( 疲労、ユーザビリ ティやヒューマンエラー等 )	55	44	72	40
人間とシステムのインタラクションに関する知識	11	22	53	24
プランニングやユーザ調査の能力	11	11	46	33
製品やシステムなどのデザイン能力	22	33	38	25
生理計測や統計解析などの測定・分析・評価能力	33	22	70	53
標準化・体系化や人的資源活用などのマネジメント 能力	0	11	38	41
その他	0	0	5	1
特にない	0	0	4	5

表 10 学生と会社の能力意識



- ─── [学生]将来活かしたい能力
- ━◯━ [産業][行政]所属部署で求められる能力
- -※ [産業][行政]所属部署で業務上困っている点

図 12 学生と会社の能力意識

# 8. 人間工学の普及・発信のために必要な取り組み

人間工学を社会に普及・発信するために、産官学民の各セクターにおいて、どのような取り組みが必要だと思いますか? また、学会として各セクター(産官学民)に支援すべきことなど、ご意見があれば、ご記入下さい

表 11 人間工学の普及・発信のために必要な取り組み

	産:人間工学の事例を外部に公表すること。学会への積極的な参加。
	官:産学連携のためのコーディネイト。国レベルでは新たな施策につながる事業展開
<b>—</b>	学:先進的取り組み。次世代研究者の育成。
官	民:ユーザとしての「使いここち」に対する意見を積極的にフィードバック
	学会:人間工学の認識を高める取り組み。ユーザ、企業が人間工学を取り入れることのメリット
	を普及すること。研究者が研究資金を確保するために諸機関への働きかけ。
	日常生活・職場環境において、簡単に導入でき、安全、安心、快適などの評価が素人でも分か
官	る効果を示す事例、技術の普及・発信が必要。そのためには、市町村、自治体レベルでより直
	接的に情報の提供をする必要がある。また、市民から相談できる窓口等が必要。
	学会員以外の人々への人間工学的配慮の必要性、人間工学的配慮がないとどのように困るか等
官	子云貝以外の人々への人間工子的能應の必要性、人間工子的能應がないことのように困るが守め登蒙。
	1 11114
	県庁組織で,ユニバーサルデザインの考え方は浸透しており,担当の室もある.そこでは,WEB
	ページへでの配慮指針を設定したり,セミナーを開催している.しかし,人間工学という言葉は
	全く出てこない.担当者も人間工学についてはわからないようです.人間工学の理解を広める必
官	要があるので,ユニバーサルデザインなどのセミナーで人間工学会から講師を派遣するなどし
	て,普及して欲しい.
	ユニバーサルデザインや快適性など,他のキーワードとの関連を示し,広く理解されるようにし
	て欲しい.
	産:わかりやすい出版物を提供する。在職者向けの講座を開催する。
	官:標準化に関して、大きな予算でなくても良いので、継続的に支援するよう学会から要望す
	<b>ర</b> ి.
官	職員向けに、大会参加することのメリットがわかるような文書を、会誌に掲載する。大会長
	による、出張依頼書があるだけでも、メリットある人は多い。
	学:実用化を要求されることが増えてきていると思うが、基礎研究を推進して欲しい。
	民:売れる物に用いた人間工学の要素を公開して欲しい。
	広く一般に人間工学の安系を公開している。
<b>—</b>	
官	文系大学の一般教養科目の中に人間工学的な考え方を少しでもよいので取り入れていけるように
	なればよいと思います。
産業	人間工学という智慧が社会にどのような影響(活躍、情報発信)を及ぼしているのかを伝える
	こと。なんとなく古い学問というイメージがある。
産業	人間工学とうものはどういうものかを一般の消費者の人に分かるように普及されたらどうかと
	思います。
産業	中小企業の力をまとめること。
産業	わかりやすい事例が必要。
	人間工学の位置付けの明確化。
産業	特に民間企業は、広義の意味での人間工学を促進すべきだと考える。
	メーカーにたいしてはまじめに人間工学の有効について説明会を実施する
<del>**</del> ***	役所に対しては人間工学出出身者をおくりこむべき
産業	もっと実践的な活動をやるべき
	学会(大学)は大手メーカーだけに関心がありもっと中小メーカーにも関心をはらうべき
	人間工学がいかに企業の利益に貢献できるかを具体例を挙げて説明できるような取り組みがあ
産業	るとかなりアピールになると考える。
	・産官学民の横の連携
産業	・人間工学の知見を産業界で活用
	より簡便な実践例からPDCAを回し、ごく短期間で少しだけ経済的に効果的な施策を行う。
産業	これを取りかかりにすれば、人間工学の認知度が向上する。
	最初から大掛かりな調査研究をしなければ人間工学の成果が上がらないとする旧来の人間工学研究ののない。
	究家の陥りやすい風習をあたらめる。
産業	狭義の人間工学に留まらず近隣学問と連携を図り、人間工学の視点を広める活動をしてほし
	ll <sub>o</sub>

産業	企業として人間工学の業務を遂行していく為には、国から、もっともっとその大切さを訴えて 欲しい。
	製品に活かせる産業界への最新の人間工学の知見や情報の発信等
<u> </u>	
性果	人間工学の視点で開発した製品・サービスが売れるという事例
産業	公共施設・設備で考慮されているものがあれば、その場で、どういう視点で人間工学的に考え
	られているかということを提示する。
	人間工学の適用事例を明確にして社会的な位置づけをあげる 例えば、ロネの場合は鉄道や鯨突機の事状が行った場合、場際者のドラ・フンエラ・を関すの過
	┃ 例えば、日本の場合は鉄道や航空機の事故が行った場合、操縦者のヒューマンエラーを個人の過 ┃ 失として刑事罰の対象として捉えることしかしないが、本来は人間工学的な検討が必要なはずで
産業	大として刑事割の対象として捉えることしかしないが、本木は人间上子的な快的が必要なはすである。
	める。   学会としてもそのような事例について見解をだすなど、社会と積極的にかかわり存在意義を明ら
	かにする必要があると思う。
産業	人間工学の発展が人と社会の発展に貢献できることを広く社会にアピールすることが必要。
産業	人間工学の発展が人と社会の発展に貢献できることを広く社会にアピールすることが必要。
<b>在</b> 未	学
産業	・人間工学=評価技術となっており、これでは企業に入っても活躍範囲が非常に狭い。製品設計
1221	の中で人間工学を活用できる人材を育成してほしい。
<del>***</del> ****	人間工学はカバーする範囲が広すぎて、とっつきにくい印象がある。技術分野毎に体系化させ
産業	るような取り組みが必要。
	人間工学的手法のツール作り・・・(すでにこのようなツールがあるのかもしれませんが)例
	えば品質工学の『QC7つ道具』のように、『人間工学7つ道具』というものができれば、人間工学
産業	がとても使いやすくなると考えます。それが特徴的なビジュアルを持つツールであり、基本ツー
<del>生来</del>	ルとして一般的に広く認知されるようになれば、非常に有益なものになると考えます。個人的に
	は、ユーザー、得意先、上司等に対して「人間工学の ツールを使って設計しました」と説明
	しやすくなります。
産業	事例紹介による啓発活動
産業	標準化方法をみなが共有すること
	│ 人間工学の教育者に対して企業の声を伝えたい。 │ インハウスデザイナーにはデザインスキルがあるのは当然、人間工学の一部分の専門スキルだけ
	インハウステリイナーにはテリインスキルがあるのはヨ杰、人间工学の一部方の等门スキルだけ   があっても、企業は社員として受け入れないでしょう。
	かめりても、正案は社員として受け入れないてしまう。   人間工学の範囲がとても広い事に対してスキルが多岐に渡り大変なことはわかります。
産業	一方、ほとんどの企業の中での細分化は今だに遅れています。
	成果が表現しにくいのと効果がじわじわと遅れた時間で表れる評価の不利な分野です。
	企業経営者やトップにデザインだけでなく、人間工学分野の組織の役割と重要性を啓蒙する施策
	をする
	定性的な評価基準(完成、使いやすさ等)を定量的、かつ客観的な指標として確率するための
産業	評価手法、評価指標に関する基礎的な研究を国プロとして立ち上げるためのしくみの強化、支援
	が必要と思われる。
	家電製品も多機能化となり、各社でその使い方も異なることから、ユーザーが不便を感じてい
産業	る面もある。
	今後、使いやすさについての業界統一基準も検討していくべきと考える。 8セクターが控力して即組めば、よりものが検討できると思う。
	各セクターが協力して取組めば、よいものが検討できると思う。 グットデザイン賞のような、一般の人にも認知度があり、マスメディアでも取り上げられる賞
	クットデリイノ真のような、一般の人にも認知度があり、マスメディアでも取り上げられる真   制度に「人間工学賞」のようなものがあると、一般の人や多くの産業界に、理解度が深まると思
産業	耐反に   八间工子員 ] いようなものがめると、   放の人で多くの産業がに、理解反が体よると心   う。
/ / /	っ。   余談:人間工学と一般の人が耳にすると、宗教じみた響きがあると言った人がいる(人間という
	言葉がそのようなイメージを想起させるのであろう)。
	民間にいる私の場所からは、官や学で取り組んでおられることが見えません。特に、官は直
	接、民にとって規制や規格を定める、学の研究費用を提供されている(のだろうとの予想)以外
	に何をされているのかわかりません。学で取り組んでおられることも、学会への参加なども景気
産業	が悪くままならない今、自らの活動をよほど外部に積極的にお知らせされている先生方以外は何
	をしていらっしゃるのか見えません。
	特定の官庁やその関連組織と民間企業、というくくりではなく、交流する場や情報提供をする取り、
	り組みは特定の団体の利益のために働くのが目的で
産業	人間工学がどのようなものか、どのように役に立つかを広く知ってもらう必要がある。
 産業	人間工学というと、人体寸法を活用すること、程度の認識の人が多い。 産官学の研究テーマ情報ネットワーク
	度目字の研究デーマ情報ペットワーク
産業	
	封ツいなひゞ、フェノいユーソヒソナ1も人間工子(放フ刀釘とめる、 ほこ。

産業	提供する側でなく、される側の意識改革がまず必要であると考えます。
	産業:人間工学専門家の立場を上位職の立場にし、待遇を向上させる
<del>***</del> ***	官 : 人間工学専門家による製品の自己認証制度を制定し、各企業に適用する
産業	学 : 人間工学分野に貢献した功績が高い企業の人材に対し、無償で博士号を与えることが出来
	るカリキュラムを適用する
	硬いイメージを払拭してすでに社会に人間工学の考慮がなされていることの啓蒙をする。
	人間工学の分野は衣服や生活雑貨からプラント、ウェブ設計と非常に広い。
	その中での全体をカバーする人間工学という名称は、硬く、非人間的なイメージがある。
産業	全体ではなく、社会的にポジティブなイメージが突出した部分を中心に選択的なプロモーション
	を
	- C - 行い段階的に認知度を上げるような取り組みがあればよいと思う。
	各セクターにおける取り組み:
	百ピノノーにのける取り温め。   産官学民のそれぞれの立場および活動領域で、人間工学活動の活動目的、価値の検討と、活動計
	煙台子氏のとれてれるのようのようのはない。大筒エ子の動のがは動目的、間間の検討と、活動的   画、結果の評価、結果の公表など活動の「ライフサイクル」を設計し、確実に納税者、監督者、
	回、編末の計画、編末の公祝など活動の「フィブッイブル」を設計し、確実に納続者、監督者、   利益代表などステークホルダーに確実に情報を伝え、人間工学の価値を理解してもらう必要があ
産業	利益で表なとステーケホルターに確美に情報を伝え、人間工学の価値を達解してもらう必要があ   る。産官学(民)の活動と言いながら結局は、人間工学関係者の間だけの自己満足にならないよ
	一うに普及・発信の仕組みつくりと実施の支援が必要。
	学会として各セクターを支援すべきこと:
	1.重要な公共のプロジェクト等に対し
<del>***</del> 214	・健康と病気の線引き
産業	・健康用機器も医療機器として認識されることが多いので、認定の必要性がないようにして欲し
	い。仮に必要だとしても、敷居を下げる活動をして欲しい
NII	・健康と病気の線引き
産業	・健康用機器も医療機器として認識されることが多いので、認定の必要性がないようにして欲し
	い。仮に必要だとしても、敷居を下げる活動をして欲しい
	もっと、より積極的に啓蒙や情報発信をすべきである。極端な例ですが、人間工学に関する情
	報を集めようと思っても、考慮したと謳っている製品情報が中心で、基礎技術に関する情報は、
産業	単行本を中心に入手するのが一般企業エンジニアの典型的な姿です。すなわち、古典的に語られ
注来	ている以上の情報は、本気にならないとあつめられません。一方、一部の他学会では、論文が一
	般公開されているために、比較的情報が集めやすい部分もあり、人間工学(学会誌)や講演会抄
	録をGeNiiなど比較的アクセスしやすい環境にするなど積極的に情報発信すべきだと考
	人間工学が最も進んでいる学および社会的リーダである官の方から,産の経営トップに対する
<del>소 ソゾ</del>	啓蒙活動が必要.人間工学を実践できる人材がいても,その能力を発揮することが会社としての
産業	成果として認められなければ,その能力は衰退してしまう.そういう企業を何例か見てきてい
	る.
	人間工学には専門的知識が無いと取り組めないと思われているきらいがある。また、人間工学
ᅔᅩᅷ	を推進したところで金になるのかという声が付きまとう。技術者だけでなく経営層にも。
産業	もっと、人間工学やデザインの重要性を、実例を踏まえてアピールすべき。
	推進しなかった場合との比較など。
	自分の仕事が人間工学とどのように関わりがあるのか、
産業	取り入れることでどのような利点を生み出せるのか、
	具体的な事例・パターンがわかると、認知されやすくなると思う。
産業	産のエラー発生状況を把握したうえでのフィールドワークによる解決策の立案
	人間工学の研究分野はとても幅広く、理系・文系に関係なく取り組める領域だと思います。し
学	かし、医療分野での取り組みは遅れていることから、もう少し各分野の研究者と連携を図れれば
	と思います。
عدد	各セクターに自主的取り組みを期待する前に、学会から人間工学の実践的な有用性をアピール
学	すべきである。
216	人間工学が機械工学や電気工学のように独立した学問(たとえば大学の学部や学科になりよ
学	う)になることが先決である。そうすれば各組織に人間工学セクションができる。
	人間工学会の会員によるプロジェクトチームを編成して、積極的に産官から競争的資金を獲得
	する。そして、研究の推進に当たっては、必ず産官学から選抜された共同研究者によって行うと
学	いう学会内の公募研究プロジェクトなどを複数立ち上げるべき。その研究の成果は、広く社会に
	がラテム内の公券がパラロフェブトなどを複数立ち上げるべき。とのが7.00000米は、2014年201   発信することにより、人間工学という学問の社会的認知度は向上すると思われる。
	大学として、埋もれている技術を産民に知らせ、活用を考える場が必要ではないかと感じま
学	大学として、埋むれている技術を住民に知らせ、旧用を考える場が必要ではないがと感じよ   す。
学	
<del>-</del>	
学	まずは、人間工学とはどういうものかを知ってもらう必要があるので、学会の名前で啓発的な カミナーや議習会などで関係したり、インターネットを通じてもった情報を発信していくなど
	セミナーや講習会などで開催したり、インターネットを通じてもっと情報を発信していくなど。

	・学会運営において、比較的若手(40歳代くらい)の研究者が主体となった活動もできるよう
学	にしてほしい。
	・研究の質向上のため、たとえば「論文誌の査読者の資格を明確にし、公開する」等のことが
	あっても良いと思われる。(資格の例としては、「学位取得者に限る」etc.)
274	まずはユニバーサルデザインという言葉が社会に浸透しつつあることから、製品関連開発など
学	でジョイント出来ればよいのではないでしょうか?
	人間工学は , 経済的余裕のあるときだけの付加価値的存在と位置づける企業や組織が多いと思
学	われる。そうではなく,人間工学は,人間社会においてすべての根源であり,必須の学問である
-	ことを認知してもらうような普及活動が必要だと考える。
	最近、「人間工学は先進国のさらなる便利や贅沢を追求する学問である」と誤解している人を
学	日にした。
	この点の理解を図った上で、多くの取り組みがなされることを期待する。
	現時点で、ある分野ではすでに普及・発信しているように感じられる。したがって、その社会
<u>بىد</u>	現時点で、める力野ではすでに音及・光信しているように感じられる。したがうで、その社会  貢献の認知度を高める事が必要だと思う。たとえば、企業の職員や若手研究者の養成を学会で行
学	
	うなどの活動を産官学で行うことも有効かもしれない。
	現在、どれだけの大学・学部で人間工学の講義・実習が行われているか知りませんが、その数
224	が少ないのではないでしょうか?工学系学部に限らず、多くの学部学科で人間工学の授業が行わ
学	れることが望ましいです.企業の安全対策(ヒューマンエラー防止など)を担当されている方
	は,人間工学の重要性を認識されていますが,実際に大学で人間工学を学ばれた方は少ないとい
	う印象です.
学	各セクター間のより親密なコミュニケーション
	人間工学を社会に普及・発信するためには、まずは、人間工学とは何か? ということを皆が
学	共通認識をする必要がある。安全とか、ユニバーサルデザインは 人間工学の領域ではないと
<del>-f</del>	思っている人が多すぎる。
	そのため、学会として、人間工学の領域をまずは提示、公開する必要がある。
	会員外へのアピール
عدم	社会的な要請に応えるしくみ(たとえば安全な製品、危険な製品、産業事故などに対するコメン
学	<b>ト</b> )
	マスコミへの露出も含めたPR活動
学	企業及び科研費からの研究費を確保すること。
学	学会は、政治家や新聞などの公共メディアに、より発言すべきだ。
	学会としては、産官学民をつなぐ取り組みが必要と思う。
学	また、分野の重なりのある他学会や協会との連携を図るような取り組みがあってよいのではない
	か。
	・(学問)分野の分類としての「人間工学」を「電気」「機械」「情報」などと同列に位置付
学	けるような働きかけ
	・人間工学が「役立つ」「儲かる」等のPR
	人々のニーズの共有や取り組むべき課題の共有。お互いの主張や考えを出し合うというだけで
学	ハ・ツー ハッハロ・カッピ・こかだいハロ。 ひユバッエボド ったら田 ロロ ノこい・ノにい こ
	けかく   同じ日煙を持つためには租状認識が一致していることが失決だと思うが 「いるいるか
7	はなく、同じ目標を持つためには現状認識が一致していることが先決だと思うが、「いろいろな」
T	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。
<u> </u>	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが
<u> </u>	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。
学	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。
	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。
	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における
	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。  製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における 人間工学的配慮事項とか配慮すべき事例集をHPで紹介する(会員投稿)
学	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における 人間工学的配慮事項とか配慮すべき事例集をHPで紹介する(会員投稿) 売りようのない人材は育成しない。絶対に企業で必要なニーズと連動した分野の人間工学技術
	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における 人間工学的配慮事項とか配慮すべき事例集をHPで紹介する(会員投稿) 売りようのない人材は育成しない。絶対に企業で必要なニーズと連動した分野の人間工学技術を身につけさせて送り込むこと。
学	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における 人間工学的配慮事項とか配慮すべき事例集をHPで紹介する(会員投稿) 売りようのない人材は育成しない。絶対に企業で必要なニーズと連動した分野の人間工学技術
学	考えがある」という理解で終わっているのではないかと思う。 製品安全研究所や消費生活センターのHPを利用した教材を作成しているが 学会HPでもGPだけでなく、生活領域での安全・安心を普及する事例集を検討してはどうか。 日常生活製品を購入する場合の、ポイント集をHPに。 モノには一長一短があるが、そうした製品の解説集をHPに。 会員は海外での学会・会議に出席する機会が多いので、異文化における 人間工学的配慮事項とか配慮すべき事例集をHPで紹介する(会員投稿) 売りようのない人材は育成しない。絶対に企業で必要なニーズと連動した分野の人間工学技術を身につけさせて送り込むこと。

# 9. 学会ホームページについて

### 9.1. 閲覧頻度とコンテンツ

日本人間工学会のホームページの年間の閲覧頻度はどの程度ですか 日本人間工学会のホームページで主に閲覧するコンテンツをご回答ください

	民	官	産	学	総計
0	0	2	7	3	12
~ 5	4	6	21	7	38
~ 10	2	1	9	11	23
~ 20 ~ 30	2	0	9	7	18
~ 30	1	1	9	5	16
~ 100	1	0	4	6	11
~ 200	1	1	2	1	5
~300以 上	0	0	3	0	3
総計	11	11	64	40	126

表 12 セクタ別ホームページ閲覧頻度

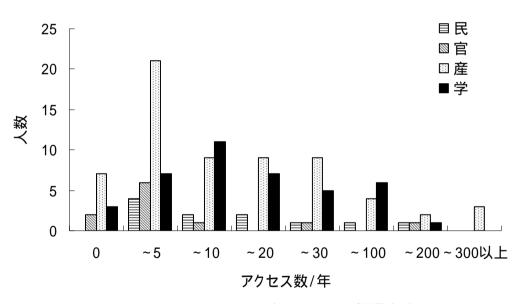


図 13 セクタ別ホームページ閲覧頻度

表 13 セクタ別コンテンツ閲覧率

	_			大	
	般・そ	行政	産業	学・研	総計
	の他			究所	
トップページ(トピックス・お知らせの確認)	81.8%	81.8%	62.5%	80.0%	71.4%
人間工学会とは / 会長からのメッセージ	0.0%	0.0%	6.3%	5.0%	4.8%
入会案内	0.0%	0.0%	3.1%	2.5%	2.4%
学会誌について/論投稿規程	36.4%	18.2%	7.8%	12.5%	12.7%
学会誌バックナンバー	45.5%	18.2%	20.3%	12.5%	19.8%
イベント案内	81.8%	63.6%	57.8%	52.5%	58.7%
役員・委員一覧	9.1%	0.0%	4.7%	5.0%	4.8%
学会事務局情報	0.0%	0.0%	1.6%	5.0%	2.4%
各支部のページ (関東/東海/関西/中国・四国九州)	54.5%	36.4%	29.7%	55.0%	40.5%
各委員会のページ ( 広報 / 編集 / 国際協力 /	0.0%	18.2%	14.1%	20.0%	15.1%
ISO/TC159···)	0.0%	10.2%	14.1%	20.0%	15.1%
各研究部会のページ(口と健康/航空/アーゴデザイ	18.2%	36.4%	17.2%	22.5%	20.6%
ン…)					
人材募集欄	27.3%	9.1%	14.1%	35.0%	21.4%
リンク集	9.1%	9.1%	6.3%	0.0%	4.8%
人間工学専門家機構 (CPE)のページ	18.2%	27.3%	35.9%	32.5%	32.5%
人間工学グッドプラクティスデータベース	9.1%	0.0%	10.9%	5.0%	7.9%
ガイドラインページ(小学校でのコンピュータ利用ガイ	18.2%	18.2%	37.5%	15.0%	27.0%
ド/ノートPCガイド)	10.2%	10.2%	37.3%	13.0%	21.0%
特にない	0.0%	0.0%	3.1%	5.0%	3.2%
その他	0.0%	9.1%	9.4%	5.0%	7.1%

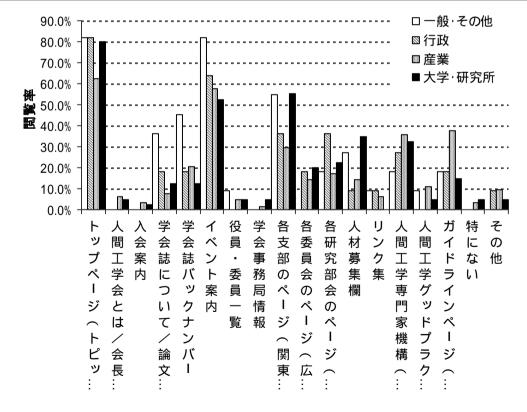


図 14 セクタ別コンテンツ閲覧率

### 9.2. ホームページのコンテンツと視覚的美しさ

現在の学会ホームページ(HP)のコンテンツについて、下記の項目を評価してください 現在の学会ホームページの視覚的美しさ(ビジュアルデザイン)について、評価してくだ さい

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に不満足	0	2	1	1	4
やや不満足	1	4	11	5	21
どちらともいえな い	5	3	41	15	64
やや満足	5	2	8	18	33
非常に満足	0	0	3	1	4
総計	11	11	64	40	126

表 14 情報量(掲載情報の過不足の度合い)

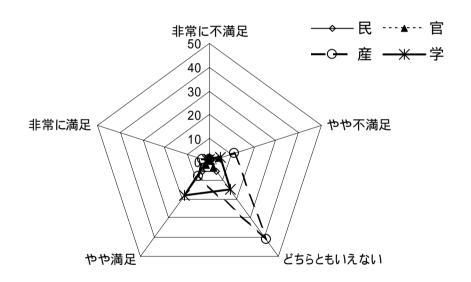


図 15 情報量(掲載情報の過不足の度合い)

表 15 掲載情報の質(自分が知りたい情報、役に立つ情報が掲載されているか)

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に不満足	0	3	3	1	7
やや不満足	3	4	11	7	25
どちらともいえな い	4	3	34	14	55
やや満足	4	1	13	17	35
非常に満足	0	0	3	1	4
総計	11	11	64	40	126

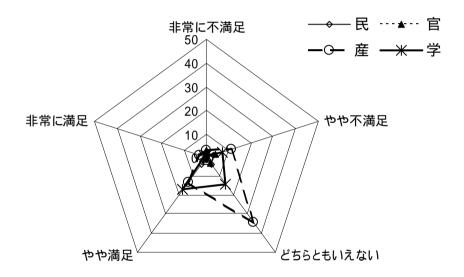


図 16 掲載情報の質(自分が知りたい情報、役に立つ情報が掲載されているか)

表 16 情報の新しさ(更新頻度、タイムリーな情報掲載など)

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に不満足	0	0	0	1	1
やや不満足	0	2	12	6	20
どちらともいえな い	6	7	33	15	61
やや満足	4	1	18	15	38
非常に満足	1	1	1	3	6
総計	11	11	64	40	126

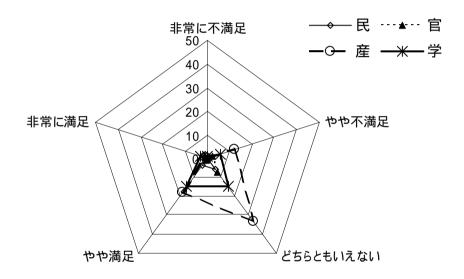


図 17 情報の新しさ(更新頻度、タイムリーな情報掲載など)

表 17 情報の体系的分類・整理(きちんと情報が整理されており探したい情報にたどり着けるか)

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に不満足	1	2	3	3	9
やや不満足	1	1	13	8	23
どちらともいえな い	6	4	30	11	51
やや満足	3	2	14	15	34
非常に満足	0	2	4	3	9
総計	11	11	64	40	126

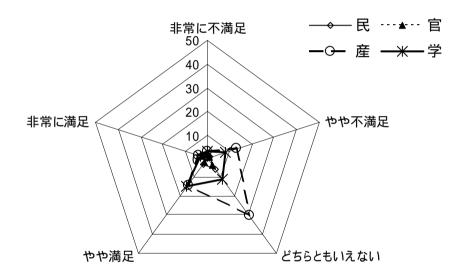


図 18 情報の体系的分類・整理(きちんと情報が整理されており探したい情報にたどり着けるか)

表 18 ページデザインの洗練さ

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に低い	2	3	7	3	15
やや低い	1	1	22	9	33
どちらでもない	7	5	29	18	59
い高ササ	1	2	5	9	17
非常に高い	0	0	1	1	2
総計	11	11	64	40	126

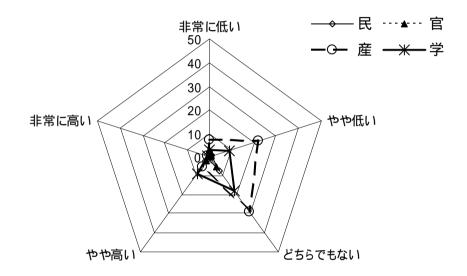


図 19 ページデザインの洗練さ

表 19 ページデザインの新しさ

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に低い	2	3	10	4	19
やや低い	2	2	18	9	31
どちらでもない	6	5	31	19	61
り高みか	1	1	4	7	13
非常に高い	0	0	1	1	2
総計	11	11	64	40	126

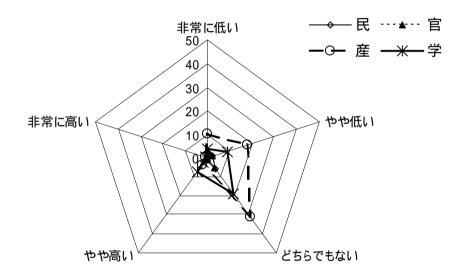


図 20 ページデザインの新しさ

表 20 ページデザインに関する総合的満足度

選択肢	民	官	産	学	総計
非常に低い	2	1	5	2	10
やや低い	0	3	15	10	28
どちらでもない	7	5	37	18	67
い高サウ	2	2	6	9	19
非常に高い	0	0	1	1	2
総計	11	11	64	40	126

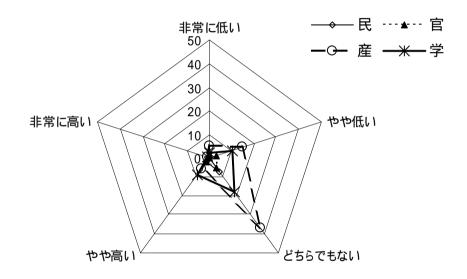


図 21 ページデザインに関する総合的満足度

## 9.3. ホームページの使いやすさ

現在の学会ホームページ(HP)の使いやすさについて、下記の項目を評価してください。 なお、肯定的・否定的な設問が交互に配置されています。設問内容をよく読み、回答ください。

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	4	1	0	3	8
やや思わない	2	1	8	8	19
どちらともいえない	4	6	36	12	58
やや思う	1	3	20	15	39
非常に思う	0	0	0	2	2
総計	11	11	64	40	126

表 21 頻繁に学会 HP を使いたいと思う

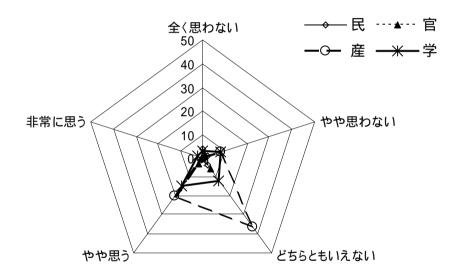


図 22 頻繁に学会 出を使いたいと思う

表 22 学会 HP は不必要に複雑だと思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	1	2	6	10	19
やや思わない	3	1	23	15	42
どちらともいえない	5	5	16	8	34
やや思う	2	1	19	4	26
非常に思う	0	2	0	3	5
総計	11	11	64	40	126

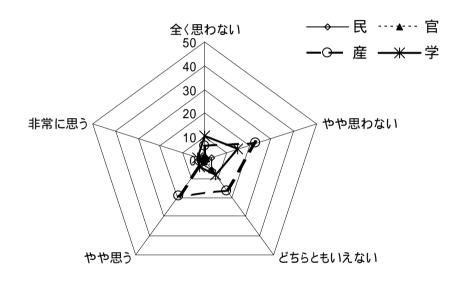


図 23 学会 HP は不必要に複雑だと思う

表 23 学会 HP は簡単に使えると思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	0	1	1	2
やや思わない	3	4	15	6	28
どちらともいえない	3	1	24	12	40
やや思う	5	4	22	15	46
非常に思う	0	2	2	6	10
総計	11	11	64	40	126

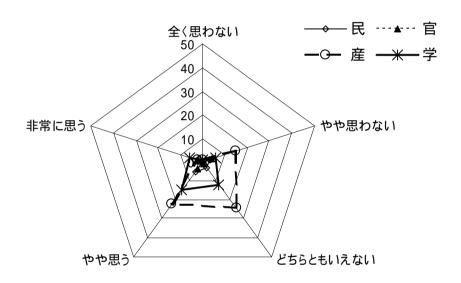


図 24 学会 HP は簡単に使えると思う

表 24 学会 HP を利用するために、他人の支援が必要だと思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	4	2	24	15	45
やや思わない	4	4	16	11	35
どちらともいえない	1	5	17	8	31
やや思う	2	0	5	6	13
非常に思う	0	0	2	0	2
総計	11	11	64	40	126

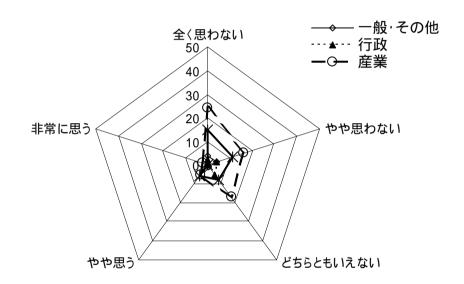


図 25 学会 HP を利用するために、他人の支援が必要だと思う

表 25 学会 HP は様々なコンテンツをうまくまとめられていると思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	2	4	2	8
やや思わない	2	2	21	6	31
どちらともいえない	7	5	28	12	52
やや思う	2	2	10	19	33
非常に思う	0	0	1	1	2
総計	11	11	64	40	126

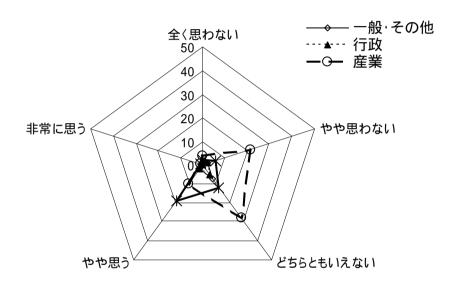


図 26 学会 HP は様々なコンテンツをうまくまとめられていると思う

表 26 学会 HP は一貫していない点 (デザイン・コンテンツなど)が多くあると思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	2	4	7	13
やや思わない	1	1	15	10	27
どちらともいえない	7	5	33	12	57
やや思う	3	2	10	10	25
非常に思う	0	1	2	1	4
総計	11	11	64	40	126

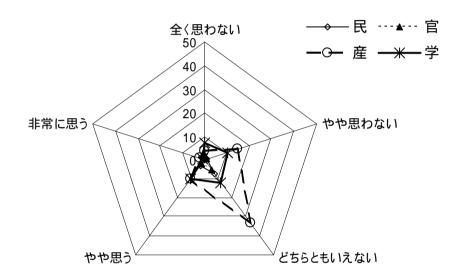


図 27 学会 HP は一貫していない点 (デザイン・コンテンツなど)が多くあると思う

表 27 多くの人が学会 HP の使い方を素早く習得することができると思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	1	4	1	6
やや思わない	4	0	9	5	18
どちらともいえない	4	6	32	19	61
やや思う	3	3	19	13	38
非常に思う	0	1	0	2	3
総計	11	11	64	40	126

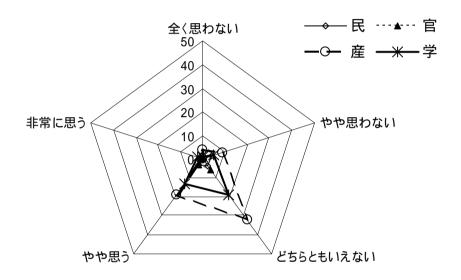


図 28 多くの人が学会 HP の使い方を素早く習得することができると思う

表 28 学会 HP はとても使いにくいと思う

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	2	10	8	20
やや思わない	5	6	15	13	39
どちらともいえない	5	2	23	17	47
やや思う	1	1	13	2	17
非常に思う	0	0	3	0	3
総計	11	11	64	40	126

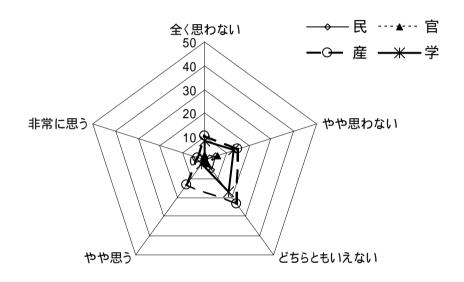


図 29 学会 HP はとても使いにくいと思う

表 29 自信をもって(安心して)学会 HP を閲覧することができる

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	0	1	2	1	4
やや思わない	2	0	10	2	14
どちらともいえない	7	4	32	18	61
やや思う	1	5	14	13	33
非常に思う	1	1	6	6	14
総計	11	11	64	40	126

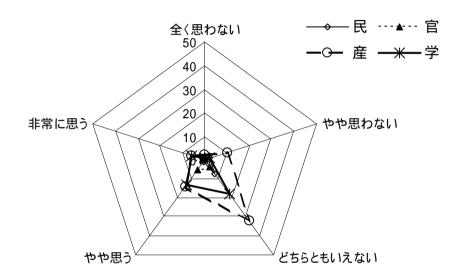


図 30 自信をもって(安心して)学会 HP を閲覧することができる

表 30 学会 HP を利用するために、多くのことを学習する必要があると思う(画面移動操作や掲載情報の構成を理解するなど)

選択肢	民	官	産	学	総計
全く思わない	2	3	16	11	32
やや思わない	3	2	21	15	41
どちらともいえない	4	5	18	10	37
やや思う	1	0	8	4	13
非常に思う	1	1	1	0	3
総計	11	11	64	40	126

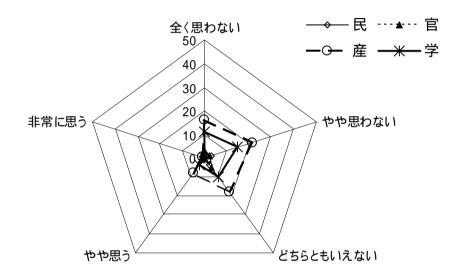


図 31 学会 HP を利用するために、多くのことを学習する必要があると思う(画面移動操作や掲載情報の構成を理解するなど)

### 10. 委員会で検討を進めているコンテンツ案

### 10.1. 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツ (Information for Students)

#### 現状

人間工学会の学会 HP には、各セクター向けに整理されたコンテンツは提供されていません。

## 検討内容

人間工学を学ぶ学生向けのコンテンツを提供します。大学生・大学院生向けには、どのような知識と技術を身につければどのような仕事に就けるのかという就職の道筋を提供します。また、企業が求める専門能力や技術情報も体系的に収集し、学ぶべき事柄を示します。高校生向けには、どの大学でどのようなことを学べるのかといった情報一覧を提供したり、製品事例から関連する大学を検索できるようにするなど、産・学・民の連携と職業のつながりの情報を提供します。

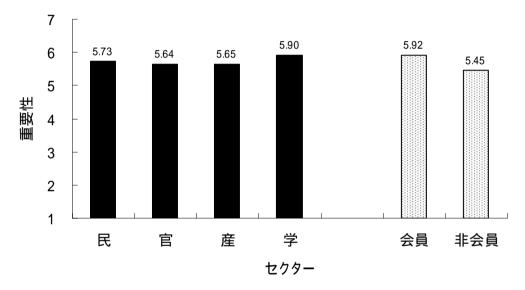


図 32 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツの重要性

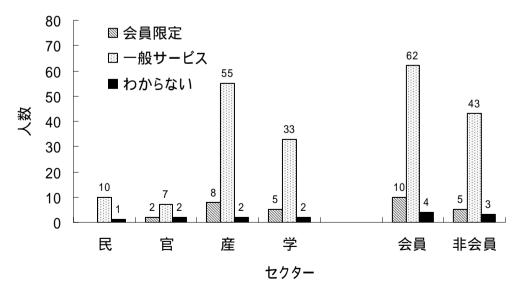


図 33 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツの提供方法

表 31 人間工学を学ぶ学生向けコンテンツに対する意見

産	特に対象を「学生」に限定する理由が分からない。もっと広く一般社会(非会員・非専門家な
	ど)向けとしても、共通に使えるコンテンツが多いのではないか。
産	対象次第:高校生まで広げるのであれば、一般公開にしないと無意味。重要性はコンテンツに
· <del>-</del>	依存。
産	対象次第:高校生まで広げるのであれば、一般公開にしないと無意味。重要性はコンテンツに
<i>/</i>	依存。
産	対象次第:高校生まで広げるのであれば、一般公開にしないと無意味。重要性はコンテンツに
/	依存。
産	人間工学を学んだ学生の声(産官学)も必要
産	人間工学を学び人の支援であると同時に将来の社会人に対する正しい理解のため必要
	人間工学を学びたいという学生を増やすということでは意味があるかと思いますが、就職の道
産	筋というには、就職先が少ないという印象です。学生をひきつけることも大切ですが、それよ
	り、教育機関で学べることの内容充実が先ではないかと思います。
産	人間工学の道が将来あることを示すべきと思う
産	就職の道筋になるような情報のイメージができないのでいらないのでは?
産	既に企業に所属している方とコンタクト取れるシステムも必要と思う
莊	学生の専門能力を企業はそこまで重視していないと思いますし、一般論で終わる気がしまし
<u>産</u>	た。
産	学生に一方的に発信するのではなく、学生からの情報発信も掲載しては?
産	会員限定ページは、会員数を増やすことに対して消極的態度である。
産	会員限定としただけで、閲覧したくなると思うので、絶対NGと考える。
産	一般公開はさわりのみで、完全サービスは会員限定にするのはどうか
産	はやくやるべきだと思います。
産	その専門性があったとしても、企業でその仕事に100%従事できるとは限らない
産	U eyes Designで協力します
官	学生には常に開かれた会である方が、良い。
官	HPに誘導する仕掛けが必要。他のHP、ユーチューブからTV、ラジオなどの利用
学	閉鎖的であっては,発展も普及もない。公開すべき。
学	提供方法はコンテンツの内容で,限定,一般に分類するのがよい
学	将来、必要に応じて学会員になってくれればよいので一般向けでも可能ではないでしょうか。
学	一部会員向け、一部一般公開と2段階にしてはどうか。
学	データベースの閲覧を可能にする
民	就職活動時の参考になると思う
	若者向けの情報は、絶対に公開すべきです。
	広く門戸を開けば、その中から将来の学会を担う人材が現れるものと信じます。
	-   内容については、就職の道筋よりも
民	プロフェッショナルの語る「夢」や「熱意」を連載して欲しいと思います。
	若者にとって役立つのは、いろんな人の話を聞くことです。
	   道筋なんてものは、そういった話の中から自分で見つけ出していくものです。

### 10.2. 人材募集欄の有効活用

### 現状

人間工学会の学会 HP では、学会事務局へ求人情報掲載の依頼を頂いたものについて 「人材募集」欄に掲載しています。

### 検討内容

人材情報の積極的な収集や、企業が求める人間工学人材ニーズを収集し、より活発な就職支援サイトにします。各大会において、人間工学で就職を希望する学生と企業の人間工学実務担当者が意見交換をする機会を会場内で提供していますが、そのような企画の全国展開や討論内容を HP で提供し、多くの学共有することができるようにします。

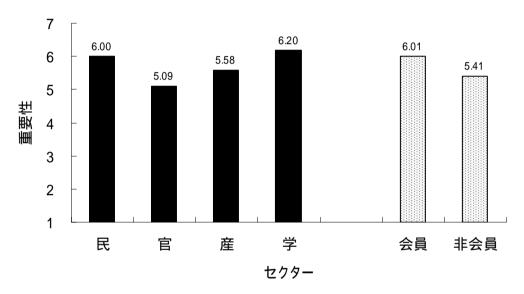


図 34 人材募集欄の有効活用の重要性

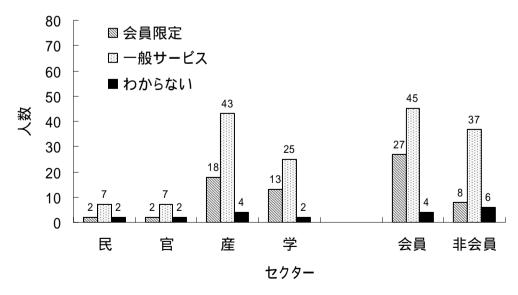


図 35 人材募集欄の有効活用の提供方法

# 表 32 人材募集欄の有効活用に対する意見

***	***************************************
産	弊社ではバイトで実体験し育てたいと思っております。
産	非会員でも普及させることがまず必要と思います
産	大学自身が大企業にしか目が向いていないので中小や設計事務所等は対応できない
産	先ほどの企画より、こちらの方が興味がある
産	正社員だけでなくインターンやアルバイトもあると良いですね。
産	是非とも上記検討の推進をお願いしたい
**	人材募集のページに載せる情報を、企業などから受け付ける際に、学生側が知りたいと思う事
産	項について情報の提供を受けられるよう、標準の書式を設けるべき。
	人間工学人材の初学者だけではなく、業界内での転職の機会を知る情報がほしいと思います。
産	一般的な人材募集の分類には出てこないので(募集数が少ない、かつカテゴリーとして人間工学
	というのがない、という理由もあると思われます)。
産	広く公開して活発にすることが重要と思う。
産	学生よりも、中途採用の方が重要かも知れません。
<b></b>	学会に対して募集されたものを一般公開する意味が分からない。学会として責任を持って紹介
産	することを欲されているのであれば、会員限定であるべき。
<b></b>	学会に対して募集されたものを一般公開する意味が分からない。学会として責任を持って紹介
産	することを欲されているのであれば、会員限定であるべき。
4	学会に対して募集されたものを一般公開する意味が分からない。学会として責任を持って紹介
産	することを欲されているのであれば、会員限定であるべき。
産	一番見ているコンテンツなので一般公開されていると助かるのですが
産	一般公開はさわりのみで、完全サービスは会員限定にするのはどうか
産	一般公開にしなければ、企業からの情報は集まらない。
官	学会に新たに入る人・企業を増やすためには、公開の方が良い。
官	できれば、国内外、障害問わず、ノーマライゼーションの理念に沿った求人をして欲しい。
	人材募集についても、人間工学に興味を持ち、職業としてから学会員になるのでもよろしいか
学	と思います。
学	情報は一般公開にして、その先の段階(意見交換、討論内容など)は会員限定にする。
	一部、会員限定(たとえば、学生会員専用とか)もあってもよいが、基本的な部分は一般公開
学	でもよい。

# 10.3. 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイト

#### 現状

人間工学会の学会 HP では、人間工学人材を紹介するコンテンツは提供しておりません。

# 検討内容

企業でがんばっている人間工学実務者の方を学会(ニーズ対応委員会)が取材し、人間工学を活かした製品作りや苦労話などを取材記事として掲載します。企業の人間工学実務者を取り上げて紹介することで、人間工学の社内での普及促進にも繋がり、また、人間工学を志す学生にも貴重な情報となります。

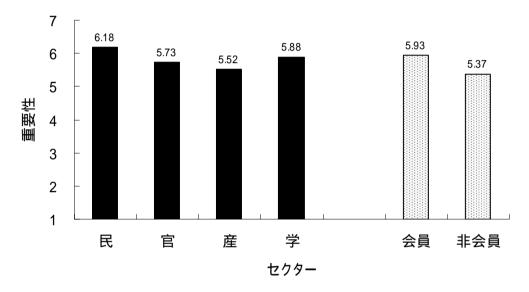


図 36 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイトの重要性

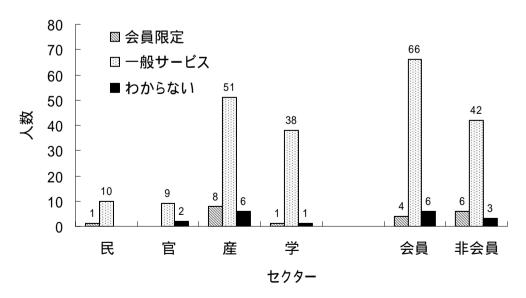


図 37 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイトの提供方法

# 表 33 人間工学分野で活躍している人を紹介するインタビューサイトに対する意見

産	分かりやすいことが必要だと思います。
産	誰を対象に、何をねらうのかによって重要性と提供方法が異なる。
産	誰を対象に、何をねらうのかによって重要性と提供方法が異なる。
産	誰を対象に、何をねらうのかによって重要性と提供方法が異なる。
産	但し、紹介できる製品が少ないのが残念です。
産	他社での取り組みということでは興味のあるトピックだと思います。
産	人間工学を用いて実際に何を行っているのか生の声が聞けて良いと思う
産	人間工学とは何かの理解を助け、人間工学の有用性を広めることができると思う。
産	社会的な意義を明確にする上でも重要と思います
産	企業内実務者のモチベーション向上につながると思います。
産	学会冊内のコンテンツよりも、もっと広く行き渡る手段が利用できた方が良い。
産	会員限定だ人間工学をと普及させにくいのでは?
産	よいと思う
産	U-siteでも継続が難しそうでしたし、優先度は低くしてもいいのでは。
官	動画でない方が良い。
官	ユーチューブなどの動画の利用
学	面白い企画だと思いますが、名前や写真の掲載があるのであれば、会員限定または一般公開で
f	悩ましいところです。
学	会員はもちろん、非会員の方々のモチベーションを高めることが人間工学の普及には欠かせな
f	いと思います。
民	既に別の項目で意見しましたが、そういうものがあると有益です。

# 10.4. 人間工学を紹介するコンテンツ

#### 現状

人間工学会の学会 HP で 「人間工学とは何か」をわかりやすく紹介するコンテンツは提供しておりません。

#### 検討内容

学生や一般の方のみならず、企業や大学でも「人間工学とは何か」を理解していない方が多いのが現状です。専門ではない方にも、人間工学を理解してもらえるようなコンテンツを用意します。例えば人間工学が扱う分野や領域、製品事例をもとに、どのように人間工学が役立っているかを紹介し、理解を促進します。

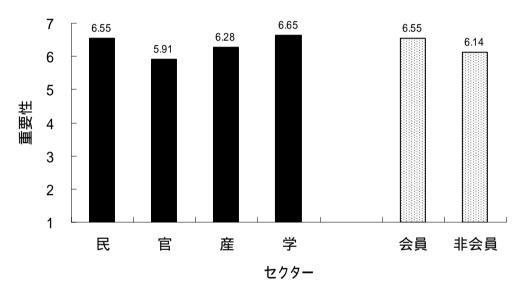


図 38 人間工学を紹介するコンテンツの重要性

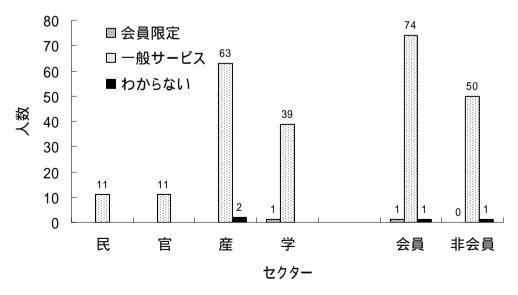


図 39 人間工学を紹介するコンテンツの提供方法

表 34 人間工学を紹介するコンテンツに対する意見

産	
産	用語集など、日常的に訪れてもらうコンテンツも必要です。
産	範囲が広すぎて逆に複雑になる気がします。
産	是非やるべきと思います。
産	是非やるべきと思います。
産	人間工学が何かよりも、役に立つ、興味深いことが先である
産	社会に開かれた学会を望みます。日常の生活や労働と密接に関連する内容を扱っているはずの 学会なので。
	学術的な側面から、さらにそれらがどのように応用でき、何の役に立つのか紹介する必要を感
産	じます。さらに、「古典的」な人間工学にとどまらず、その派生している分野のことにまで解説
	が及ぶことを期待します。
産	会員に紹介しても仕方ないです.是非一般の方に・・・
産	まず裾野を広げるためのきっかけとして非常に重要。
産	まず裾野を広げるためのきっかけとして非常に重要。
産	まず裾野を広げるためのきっかけとして非常に重要。
産	まず広く理解促進することは重要だと思う
産	これから理解したいと思う人を対象とするなら一般公開が望ましい。
産	こういったコンテンツの充実を強く希望します。
官	非常に難しい仕事と思います。重要と考えます。
学	一般向けと教育・研究向けのコンテンツが両方あればいいと思います。
216	すぐにでもコンテンツを作成していただき、社会にアピールして行っていただきたいと思いま
学	す。
民	誤解されている部分がある
	before/after、 良い例/悪い例 などと、対比させると分かりやすいのでは。
民	いろんな制約があるとは思いますが。

#### 10.5. 各支部における年次支部大会の情報提供

#### 現状

人間工学会の学会 HP では、各支部大会の開催案内はトップページおよび各支部のページにて紹介していますが、開催内容については HP で掲載していません。

#### 検討内容

各支部でどのような発表や取り組みが行われているのかを HP で提供することで、支部活動の活性化や支部間交流の機会にもなります。広報委員会が「広報特派員」を募集し、その特派員に各支部大会の取材記を提出頂き、学会 HP にて紹介するなど、各支部の魅力的な取り組みを全国に発信します。

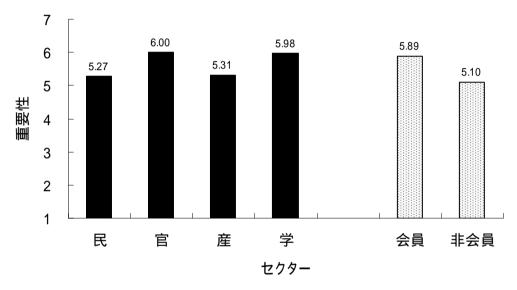


図 40 各支部における年次支部大会の情報提供の重要性

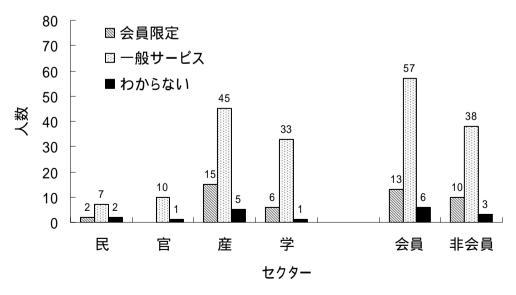


図 41 各支部における年次支部大会の情報提供の提供方法

表 35 各支部における年次支部大会の情報提供に対する意見

産	年次大会を一般公開にする意味はないと考える。
産	年次大会を一般公開にする意味はないと考える。
産	年次大会を一般公開にする意味はないと考える。
	提供方法は「どちらでも」。
産	かつて年次大会の総会にて、各支部のショートスピーチが行われたことがあった(33回か34回大会
	あたり?)が、以後、そのような機会がほとんど無くなっている気がする。
産	支部で独立しているよりもインテグレートされたイメージが必要
産	更新頻度が低く意味が無いものになっているのを良く見かけます。
産	現状で十分と思います。
産	現状で十分と思います。
産	各支部も含めた一体感のある情報提供ができれば、有用だと思います。
産	会員としては、他支部の情報がアクセスしやすくなるのはWelcomeです。
産	過年度の大会情報を記録として残すことが重要である。
÷-	演目タイトル、研究者は一般公開としても良いと思いますが、詳報(レジュメ)は会員限定
産	サービスにした方が、非会員との差別化をはかれると思います。
官	支部毎に特徴をだして、新会員をひきつけるような内容が必要。そのためにも一般公開。
官	各支部と相互リンクで構わないと思います。
学	他支部でどのような内容だったのか、わからない。是非進めてほしい。
学	各支部の詳しい内容が見られると参考になる点もたくさんあると思います。

#### 10.6. マルチメディアコンテンツの提供

#### 現状

人間工学会の学会 HP では、基本的にはマルチメディアコンテンツは扱っておりませんが、近年のブロードバンド環境の整備により、多くのウェブサイトでは動画コンテンツの配信(例えば、Pod castingにより大学講義の配信など)が行われています。

#### 検討内容

全国大会の特別講演やシンポジウム、学会主催のホットトピックな講演会など、より多くの方に情報を発信したいコンテンツについては、講演内容を映像録画し、ストリーミング配信(web 上で映像を閲覧)します。講演者への承諾に加え、配信映像の複製禁止にするなど、一定水準のセキュリティを担保した環境で運用を行います。

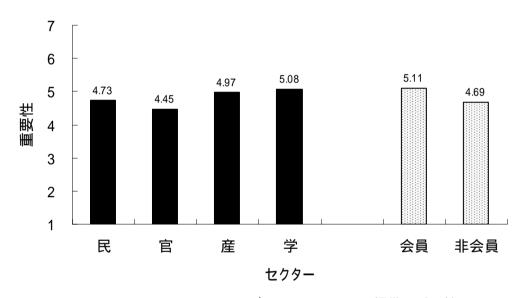


図 42 マルチメディアコンテンツの提供の重要性

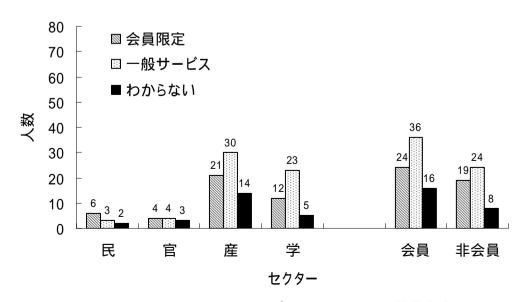


図 43 マルティメディアコンテンツの提供方法

表 36 マルチメディアコンテンツの提供に対する意見

産	内容によるのではないでしょうか
	内容によります。入会へのインセンティブになるほど魅力的な内容なら非公開でも。
産	内容によりダイジェスト版などは一般公開すべき。
産	内容によって(たとえば基調講演など)会員限定か一般公開化に分ける
÷	動画コンテンツ自体は悪くないが、優先順位としては疑問。その前にもっと充実させるべきコ
産	ンテンツがあるはず。
産	生の情報は必要だと思います。
産	人財育成施策としてはあると思います。
産	時期すでに遅しである。twitterのようなモバイルデバイス向けが必要
産	参加出来なかった方にも有用
	公演内容などを映像で見ることができるのいい考えだと思う。特に、学会や研究会への参加が
産	費用面で厳しい昨今、多くの会員にとって有益だと思います。現在、納めている会費の割りに受
	けられるサービスが少ない印象なので、これはぜひとも実現していただきたいです。
産	どうしても必要であるわけではない。提供したい情報に適切なメディアが動画であれば。
産	アメリカではモデレーターガイドを映像で流している会社があります。弊社でもビデオ作成に
连	協力できます。
産	あまり必要性を感じない
産	Podcastは今後のe-Learningの主流になると考えます。
官	動画でなければ伝わらない事と、静止画でよい物との区別が必要と思います。
÷	動画、音声は直接的で分かりやすい。非会員にも話題性、関心のあるものだけ一般に公開し、
官	詳細は会員限定として、会員増につなげる
民	費用対効果のほどは疑問ですが、大変おもしろい取り組みになると思います。

# 10.7. 企業向けの人間工学人材教育教材

#### 現状

人間工学会の学会 HP では、人間工学教育に関するコンテンツやツール類は提供していません。

# 検討内容

「企業の人間工学教育のあり方検討委員会」では、企業の人間工学実務者を対象とした教育プログラムを検討しています。業種・職種や業務内容に応じて必要とされる人間工学の専門能力や、企業内教育体系の枠組みなどを学会 HP に提供し、幅広く利用可能なように情報を提供します。

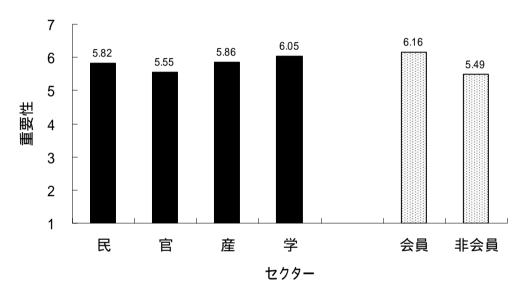


図 44 企業向けの人間工学人材教育教材の重要性

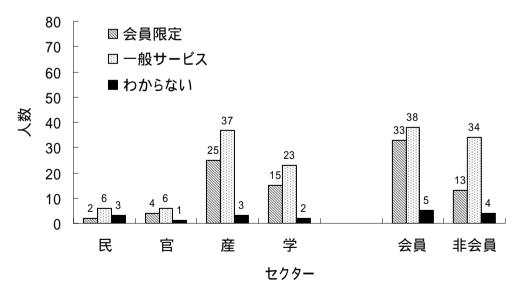


図 45 企業向けの人間工学人材教育教材の提供方法

表 37 企業向けの人間工学人材教育教材に対する意見

産	弊社でも悩んでいます。どこも同じではないでしょうか?
産	非常に必要と思います。企業からの意見を吸い上げて洗練してゆけばベターです。
産	非常に必要と思います。企業からの意見を吸い上げて洗練してゆけばベターです。
産	実務者の体験プログラムやセミナーをやっております
産	具体的なツールを提供いただけると社内でも活用できる
産	企業の人事が提供することよりも深い内容ならば必要性を感じます。
産	ダイジェスト版など広報用ビデオは一般公開。
産	そもそも提供できるコンテンツ・ツールがどのようなものかわからない。
産	これも前の問いと同じく、かなり魅力的なら非公開もよいかと思います。
産	eラーニングのコンテンツ等は期待する。ただし、何を無償公開し、何を有償で提供するかは十
	分な議論が必要と思う。
官	標準化とは違う話になると思いますが、重要です。
学	幅が広い研究分野ですので、一定の知識やスキルを確保するために必要だと思います。
学	賛助会員企業への提供と共同企画
	討議しながら改訂を重ねられるオープンソース的仕組みと、
民	優れたものに対する「日本人間工学会準拠」のお墨付きがあるといいと思います。

# 10.8. ISO/JIS 情報や活用方法の公開

#### 現状

人間工学会の学会 HP では、ISO/TC159 国内対策委員会が「人間工学 ISO/JIS 規格便覧」を毎年発行し、学会 HP にも掲載しています。

#### 検討内容

ISO/TC159 国内対策委員会が「人間工学 ISO/JIS 規格便覧」にて提供している情報に加え、各規格の活用方法や活用事例など、幅広く応用して頂くためのコンテンツを提供します。

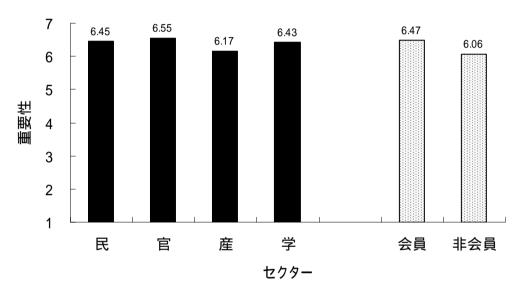


図 46 ISO/JIS 情報や活用方法の公開の重要性

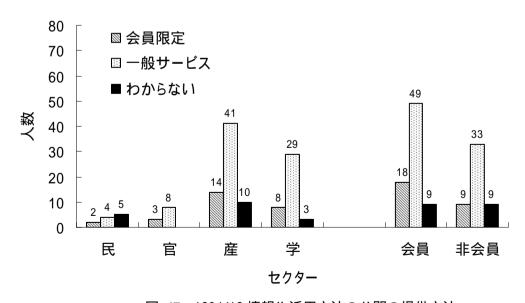


図 47 ISO/JIS 情報や活用方法の公開の提供方法

表 38 ISO/JIS 情報や活用方法の公開に対する意見

産	知らなかった
産	規格は広めるためにあるのですが、ISOは高くないですか?
産	関連する仕事をしているにもかかわらず、規格の存在自体を知らない人もいるので、それなり に意義はある。
産	活用方法や活用事例は魅力があるコンテンツと思えるので、会員獲得のために限定サービスと したらよいのではないかと思う。
官	動画などのメディアの利用
官	オープンであるべきです。
学	便覧などは一般公開でも良いと思いますが、活用方法や活用事例は一部は一般公開、全部は会 員限定にすると良いと思います。
学	一般公開用と詳細情報は会員専用など、区別する。

#### 10.9. 学会誌「人間工学」の公開

#### 現状

学会 HP では、タイトル・著者情報のリストは公開しております (http://www.ergono mics.jp/editorial/backnumber.html)。また、論文を web 上で閲覧・利用するには民間のデータベース (メディカルオンライン社:http://www.meteo-intergate.com/) にて提供されています (有料)。

#### 検討内容

(独)科学技術振興機構の運用する J-STAGE へ学会誌を登録し、世界のデータベース (PubMed など)で検索・引用可能なように整備を進めることを検討中です (誰でも無料でコンテンツを利用できます)

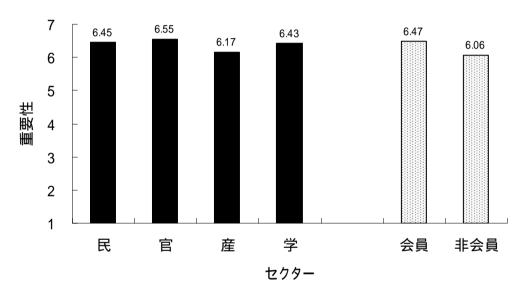


図 48 学会誌「人間工学」の公開の重要性

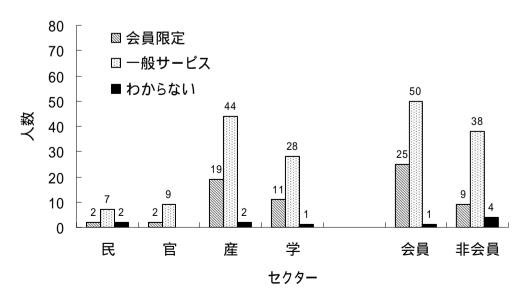


図 49 学会誌「人間工学」の公開の提供方法

# 表 39 学会誌「人間工学」の公開に対する意見

産	論文は引用されるほうが良いと思います。
産	無料の一般効果は、会員のメリットがなくなるのでは?
産	公共図書館などで利用可能になる時点で無料で閲覧可能にすべき。印刷可能にするのは会員の
/生	メリットを保護するため、数ヵ月後にすべき。
	現状のリストは、論文検索の目的には使いにくい。
	会員に対しては無償で公開して良い。非会員に対しては有償が良いが、古いもの(例えば10年以
産	上前のもの)は、無償公開しても良いのでは。
生	以前、バックナンバー(第1号からある年度まで)は、マイクロフィルムで販売されていたと思
	うが、それに代わるサービスは無いのか? 例えばDVDで購入できれば、紙のバックナンバーは廃
	棄したい。
産	学会としての対応が他に比べて遅いと思います。
産	皆さんの研究が広まればいいです。アクセシビリティ向上でしょうか
産	「知りたい情報をすぐに」が大切です。
官	6ヶ月後は、無料公開というのが、良いと考えます。
224	無料公開にする必要はないと思います。学会誌は学会の核になるものだと思いますので、無料
学	公開は会員であることのメリットがなくなると思います。
学	正会員との差別化を配慮すべき
学	J-Stageによる論文公開は、利用価値を飛躍的に拡大するので、是非、実現して頂きたい。
学	J-stageに1年前の学会誌内容を公開し、学会HPではリアルタイムに公開
学	「発行後2ヶ月」等の会員との差別化を図れば、問題ないと思います。

# 10.10. 学会誌「人間工学」への電子投稿

#### 現状

原本1部とコピー3部を添付し、編集委員会宛に郵送します。

#### 検討内容

(独)科学技術振興機構の運用する J-STAGE へ学会誌を登録すれば、オンライン査読システムを利用して運用することも可能です。J-STAGE では年 30 編以上の投稿数を損益分岐点の基準(運用コストと効果のバランス)としていますが、学術誌「人間工学」の投稿数はその基準をクリアしています。

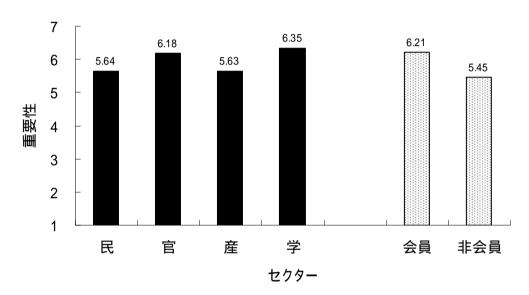


図 50 10.10. 学会誌「人間工学」への電子投稿の重要度

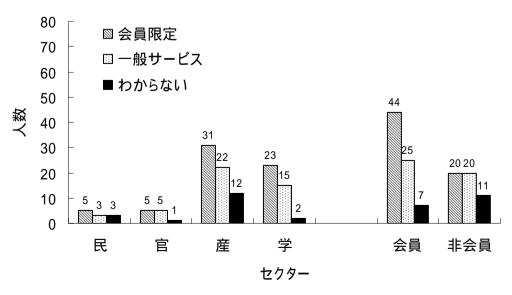


図 51 10.10. 学会誌「人間工学」への電子投稿の提供方法

表 40 10.10. 学会誌「人間工学」への電子投稿に対する意見

産	電子投稿でプロセスが早く容易になるのは歓迎です。
産	電子投稿、電子査読は経費節減と迅速化のため必須。
	他学会でリジェクトされて人間工学に投稿したのではないかと思えてしまう論文も少なくない
産	ので、投稿システムだけでなく査読システムとして検討されたほうが良いのでは。
産	身近になればいいのですが
産	手間が省けるので賛成です。
産	効率面だけでなく、投稿費用の低減にもつながるので非常に有用と思います。
産	効率面だけでなく、投稿費用の低減にもつながるので非常に有用と思います。
産	感性工学会はWEB上のオンライン投稿であり、とても便利だった
産	一般公開にしないこと
官	編集委員会がやりやすい方式を優先すべきと思います。
官	査読をしていて、郵便物の取扱が一番面倒なので、改善していただけると良いです。

#### 10.11. 学術大会講演集の公開

#### 現状

全国大会の年次講演集は、2002, 2005, 2006, 2007 の 4 年分のみ、J-SATEGE に収録されています(本文も無料で閲覧可能)。現状では年次大会を運営する事務局が講演集を J-STAGE へ登録した場合のみ、公開されています。

#### 検討内容

アブストラクトの閲覧に加え、発表演題・発表者の検索可能なようにすることで、最近の研究動向や人間工学の研究領域を把握する手段を提供できます。学術誌「人間工学」を J-STAGE に登録すれば、同雑誌の特別号として講演集は発刊されているので、年次大会事務局がその登録作業を行う必要はなく、大会の講演集を毎年提供することが出来ます。

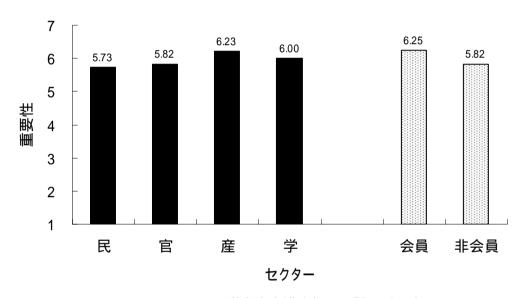


図 52 学術大会講演集の公開の重要度

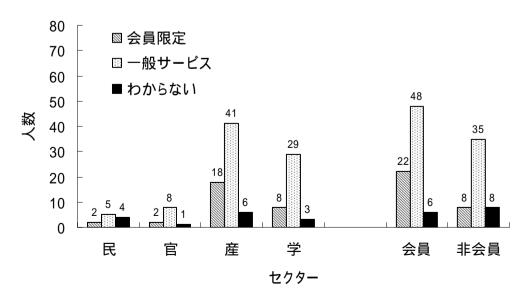


図 53 学術大会講演集の公開の提供方法

# 表 41 学術大会講演集の公開に対する意見

産	年次ごとにバラバラな対応ではなく、一定の方法で公開されていれば、学会WebサイトでもJ-STAGEでもどちらでも良い。
産	誰が何をどのくらいやっているのかは知りたいところです。
産	情報収集が楽にできそう
産	公共図書館などで閲覧可能な時期にあわせてオンラインで閲覧可能にする。印刷可能にするのは、大会参加者のメリットの保護のため数ヵ月後にする。
産	基礎調査には便利だと思う
産	学会として一貫性のある対応を希望します。
官	毎年登録しないと検索意欲をそがれてしまうことを危惧しています。
官	技術の普及促進のためにも、一般公開すべき。
学	学会抄録自体を引用することはあまりないので、必要かどうかはわからない。
学	J-stageに1年前の物を公開し、学会HPはリアルタイムに

#### 10.12. 学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口

#### 現状

論文投稿者向けの支援サイト、相談窓口は学会 HP では提供しておりません。大学など、指導教官や共同研究環境が整っている場合は投稿前に適切な指導を受ける機会があり、あまり問題となりませんが、企業の方や特定の領域の方にとっては、学術誌「人間工学」へ投稿するのは敷居が高いとの声があります。

#### 検討内容

「人間工学研究の促進と活性化」を目的に、研究計画の立て方、誤用されがちな実験計画法や統計解析、論文執筆で配慮すべきポイントなどを整理した情報を提供します。また、人間工学研究で大切となる倫理指針など、必要な関連知識も提供します。加えて、投稿者向けの相談窓口機能のあり方も検討しています。

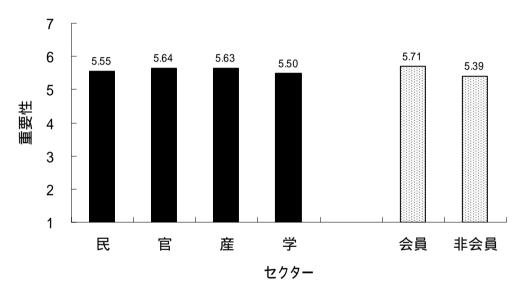


図 54 学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口の重要性

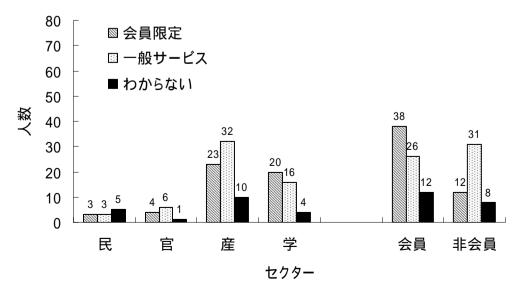


図 55 学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口の提供方法

表 42 学会誌「人間工学」への投稿者向け相談窓口に対する意見

産	典型的な研究方法を提供するのは良いが、専門家の間でも異論があるものや、従来の研究方法 では困難な対象を扱った研究などを排除してしまうことにならないかという懸念がある。
産	研究コンサルはあると良いと思いますが、投稿は本人が自主的に行動すべきと考えます。
産	学会が戦略計画によって注目している分野の論文等に限り、学会員の中から " メンター " を専任し、支援を行う。その他の一般的支援情報は会員向けHPで公表する。
産	何を相談するのかいまいちわかりません。
産	これこそ学会加入のインセンティブになりそうです。
官	誰が窓口になるかは、課題が多いと思いますが、是非実現していただけるとありがたいです。
学	論文投稿規程は学会によっても異なるため、親切なガイドがあるとはじめてのの研究者も投稿 しやすいと思います。
学	投稿者の相談に対し、適切な回答を誰が行うのか、また回答内容の品質保証や責任は回答者個 人か学会や編集委員会組織なのか等々、明確にすることが必要に思います。
学	実現できれば大変ありがたいし、おもしろいと思う。

# 10.13. 学会 HP の英語版

# 現状

現在の学会 HP では、トップページのみ英語版が提供されています。

# 検討内容

人間工学会の取り組みや成果について、英語版を整備して国際的にも発信します。

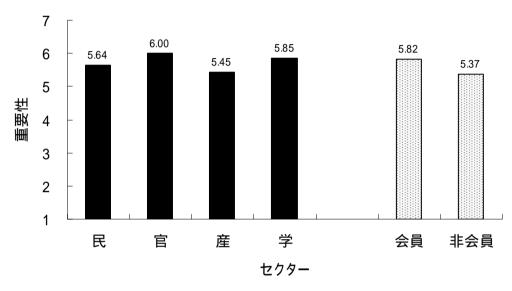


図 56 学会 HP の英語版の重要性

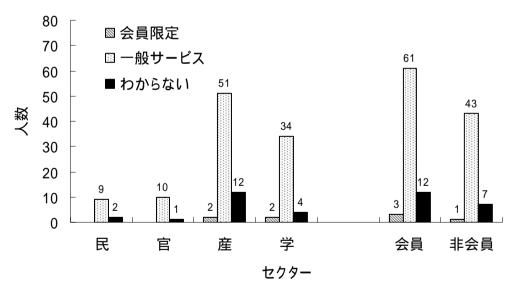


図 57 学会 HP の英語版の提供方法

表 43 学会 HP の英語版に対する意見

産	必ず必要になるので、今やっておくべきです。
圧	
産	情報掲載依頼をするときに、翻訳版も要求されるようになると辛い。掲載依頼自体を見送る
生	ケースが増えそう。
産	国際的になることが学会活性化のひとつと考えます。
産	活動計画と実績を年次に掲載してどうでしょう。
産	会員制でかつ英語だと、まったく利用されないと思う。
産	可能であれば
官	国際交流は必要ですが、現在の学会から、さらにというところまでの必要性は感じません。
学	正直、英語版がないとのことに驚いた。
学	学会の組織的対応能力はあるのだろうか
学	一部の情報に限って英語版を公開するのが、費用と労力等から現実的だと考えます。
	海外の専門家ではなく、将来の留学生に対してのニーズがあると考えます。
	理由は次の通りです。
民	・文部科学省は留学生増員計画を発表しています
K	・留学生の多くは発展途上国から来ます
	・そういった国々からくる留学生は、工学系の学生が多いようです
	・そういった国々では、人間工学の応用が遅れているようです

# <u>11. その他意見</u>

最後に、本アンケート内容に関連して何かご意見などございましたらお寄せください。

に立てる
やすいと
ければ、
の普及に
会員では
解決す
さの認識
ので、こ
が付けるよ
く浸透す
ての普及
,
そろそろ
なれば退
いいている
戦略に相

	目がにはクナゲナナ
	・量的には多すぎます。
産	・一回でやるためにこうなったと思いますが、意見の吸い上げを色々な機会で行うようにしては
	どうですか。
官	幅広く意見を聞くということが大切だと思いますので、このようなアンケートはすばらしいと
	思います。
	毎回大会に参加出来るわけでもありませんので、総会の議決事項を周知出来るような、メール
	ニュースを出していただけるとありがたいです。
	電子投稿は是非進めていただきたいと思います.論文の閲覧については,公開することで,引
官	用も増えるので進めるべきと思います.しかしながら,会員,非会員で,公開時期をずらすなど
	して,会員のメリットを確保していただきたいと思います.
官	いろいろとご検討いただき,ありがとうございます。イベント情報については,海外のイベン
	トを充実していただけるとありがたいです。
	日本人間工学会は、さまざまな分野の専門家集団です。
	全体のベクトルを合わせるのは大変だと思います。
学	ですので、分科会活動を活発化することが求められているでしょう。
	細分化した会員の研究ニーズを分科会活動で満たすべきです。
	全国大会は、いわゆる研究総会という位置づけだと座りが良いです。
学	特になし
学	詳細な計画方針のご提供ありがとうございました。今後もより良いアイデアを期待しておりま
	す。
学	より「日本人間工学会」が繁栄することを祈念しております。
学	60%でのコーヒーブレイク、進行度%表示、<現状>と<検討内容>の提示、等々、アンケー
	ト画面自体が使い勝手がよい人間工学設計ができていると感心しました。
民	(一度ブラウザが止まったのでアンケートをやり直ししました。重複していないといいです
	が。)